平成２６年度

年　　報

市立大町山岳博物館

平成 26 年度の活動から

館 長　鳥羽 章人

平成 25 年度後半は展示改修と耐震補強並びにユニバーサルデザイン化の工事を進めるにあたり平成 25 年 11 月 4 日から平成 26 年 3 月 28 日までの間、臨時休館をさせていただきました。この間、博物館をご利用いただくことができず、市民をはじめ多くの方々にご迷惑をおかけいたしました。平成 26 年 3 月 29 日からの博物館は、安全で快適な施設に生まれ変わり、展示も充実した内容となって、平成 26 年度を迎えることとなりました。

新しく設けたエントランスホールでの「山とわたしたちの未来」には多くの方からメッセージをいただき、自然の恵みへの感謝、山の先人の素晴らしさなどの記載が印象的でした、また、10 月から常設展のアンケートも実施しましたところ、概ね好評を得ていると感じましたが、展示方法などを言及する内容もあり、これらのメッセージを大切にして博物館の運営にあたっていきたいと思います。

平成 26 年度の事業で特記すべきは、鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓の調査があげられます。カクネ里雪渓は氷河の可能性が高いことから、信州大学、長野県環境保全研究所、立山カルデラ砂防博物館と山岳博物館が中心となって学術調査団を組織し、氷体の流動確認などを計画しました。しかしながら、アプローチ現地調査やルート工作並びに偵察を行った結果、雪渓の残雪状況が不安定であり、調査団員が安全に調査地まで到達することが困難と判断し、本年度の調査を断念して、平成 27 年度に向けてヘリコプターの現地着地を視野に入れた安全対策を考慮した計画に変更しました。また、ライチョウの生息域外保全事業が本格的に開始されたこともあげられます。環境省が平成 26 年 11 月に発表した「ライチョウ生息域外保全実施計画」によると、平成 27 年度から日本産のライチョウ飼育を開始することとなり、恩賜上野動物園と富山市ファミリーパークが創始個体を育成することとなりました。山岳博物館では新たにライチョウ用の飼育舎を建設し、将来は日本産のライチョウ飼育を視野に入れた事業を進める前段として、近縁種のスバールバルライチョウの飼育を開始する計画を立てましたが、ライチョウ舎の設計に遅れが生じ建物の竣工が平成 27 年度にずれ込んでしまいました。

資料の収集保管事業では、市内にお住いの昆虫コレクターから 3,587 点に及ぶチョウやトンボの展翅標本を寄贈いただきました。当地域の標本も多く、大切に保管するとともに教育普及の面では企画展等に活用したいと考えています。このほかにも山岳関係の資料を中心に個人・団体から数多くの資料を寄贈いただきました。これらの資料目録は山岳博物館のホームページにて順次公開する準備を進めています。寄贈以外にも購入による収集を化石・鉱物を中心に進めてきました。

教育普及事業での企画展として「日本山岳画協会　大町展」を 7 月から 11 月までというロングランで開催しました。この企画展は中部山岳国立公園指定 80 周年と大町市制施行 60 周年・合併 10 年記念として催しました。なお、展示は 2 部構成としてより多くの作品に接していただく機会を設けました。また、2 階展示室入口に設けた「山博研究最前線」のコーナーでは学芸員や博物館に関係する研究者のホットな情報を発信しました。教育普及活動では恒例の「付属園まつり」、「さんぱくこども夏期だいがく」を行い、リニューアルに伴う「常設展スポットガイド」を新たに実施しました。昨年度から開始した山博友の会との共催による事業は「茶臼山動物園でライチョウを観察してみよう」など 4 企画を行いました。学校との連携ではキャンプ学習のプログラムを新たに作成し現地にて行い、大変好評でした。このほかにも理科や社会科の授業、職業体験学習や総合的な学習などを受け入れ約 770 人の児童・生徒と博物館との関係を築くことができました。また出張講座にも積極的に出かけ約 720 人の方々に博物館からの情報を発信しました。

動植物飼育栽培繁殖事業では動物の個体の健康管理と植物の維持管理をして、観覧者に見学していただく一方、傷病鳥獣の救護にあたり野生復帰にも努めました。

平成 26 年度の事業を推進するにあたり、大町市民をはじめ、関係機関の皆様には大変お世話になりました。深くお礼申し上げます。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1　資料収集

(1) 新規収集資料

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日の間に、寄贈または購入・製作によって次の資料を収蔵した。

①寄贈による収集資料

内訳は、昆虫資料（自然科学系）1 件 3,587 点、図書資料（自然科学系）1 件 37 点、山岳資料、山岳図書資料、図書資料、民俗資料、美術資料（人文科学系）29 件 607 点である。

No.	受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住　　所
1	6 月 6 日	民俗資料（トビ）	2 点	個人	長野県大町市
2	8 月 13 日	山岳資料（十徳式携帯工具）	1 点	個人	東京都町田市
3	9 月 26 日	昆虫資料（蝶の標本）92 箱	3,587 点	個人	長野県大町市
4	9 月 26 日	山岳資料他（短冊(河東碧梧桐筆)他）	2 点	個人	長野県長野市
5	10 月 4 日	山岳資料（ピッケル他）	2 点	個人	神奈川県横浜市
6	10 月 4 日	山岳図書資料（日本アルプス）	1 点	個人	愛知県あま市
7	12 月 18 日	山岳図書資料（山岳修験）	27 点	岩田書院	東京都世田谷区
8	12 月 22 日	山岳図書資料（天国・地獄ヒマラヤ他）	176 点	茅野市図書館	長野県茅野市
9	12 月 22 日	山岳資料（絵葉書）	4 点	個人	長野県大町市
10	12 月 22 日	美術資料（木版画「エベレスト街道を行く」）	1 点	個人	東京都台東区
11	12 月 23 日	山岳図書資料（ROCK＆SNOW）	15 点	個人	長野県大町市
12	12 月 23 日	山岳図書資料（ピッケルとヴィーゼ他）	11 点	長野県山岳協会	長野県塩尻市
13	12 月 28 日	美術資料（油彩画「槍ヶ岳朝陽」）	1 点	個人	山梨県韮崎市
14	12 月 30 日	美術資料（油彩画「花と槍ヶ岳」）	1 点	個人	長野県松本市
15	1 月 8 日	山岳図書資料（南北極地探倹記他）	11 点	個人	長野県安曇野市
16	1 月 8 日	山岳図書資料（岩と雪他）	11 点	個人	東京都町田市
17	1 月 20 日	山岳図書資料（山んぼ）	28 点	個人	神奈川県藤沢市
18	1 月 28 日	山岳図書資料（日本風景論他）	27 点	長野県山岳協会	長野県塩尻市
19	1 月 28 日	山岳図書資料（日本の山々）	2 点	個人	長野県大町市
20	1 月 30 日	山岳図書資料（新西域記）	2 点	個人	長野県大町市
21	1 月 30 日	山岳資料（登山靴）	1 点	個人	大阪府茨木市
22	1 月 31 日	山岳図書資料（日本地理大系山岳篇他）	4 点	個人	和歌山県和歌山市
23	2 月 3 日	山岳図書資料（富山の百山）	1 点	富山山岳連盟	富山県富山市
24	2 月 3 日	図書資料（日本菌類圖説他）	37 点	個人	長野県大町市
25	2 月 20 日	山岳図書資料（登山探検画報他）	2 点	長野県山岳協会	長野県塩尻市
26	2 月 27 日	山岳図書資料（ケニヤ山のふもと他）	37 点	個人	長野県長野市
27	3 月 12 日	山岳図書資料（Bush 第 83 号他）	3 点	Bush 山の会	東京都江戸川区
28	3 月 18 日	山岳図書資料（日本山嶽志他）	106 点	個人	長野県大町市
29	3 月 23 日	山岳図書資料（白峰年報 2013 他）	115 点	㈱山と溪谷社	東京都千代田区
30	3 月 26 日	図書資料（松原修司水彩画集他）	4 点	個人	長野県大町市
31	3 月 31 日	美術資料他（山川勇一郎作絵画他）	9 点	個人	北海道北見市

②購入・製作による収集資料

内訳は、化石資料 37 点、山岳資料 1 点、図書資料 10 点である。

No.	受入日	資　料　名	数量	金額	入　手　先
1	7月28日	黄鉄鉱（スペイン産）	1点	24,840円	購入：㈱ヴァイス
2	7月28日	輝安鉱（中国産）	1点	24,840円	購入：㈱ヴァイス
3	7月28日	水晶（ブラジル産）	1点	37,260円	購入：㈱ヴァイス
4	7月28日	紫水晶（ブラジル産）	1点	29,808円	購入：㈱ヴァイス
5	7月28日	ウミユリ化石（モロッコ産）	1点	13,800円	購入：㈱ヴァイス
6	7月28日	カラミテス化石（フランス産）	1点	18,630円	購入：㈱ヴァイス
7	7月28日	アンモナイト化石（北海道産）	1点	9,936円	購入：㈱ヴァイス
8	7月28日	魚化石（レバノン産）	1点	19,872円	購入：㈱ヴァイス
9	7月28日	エビ化石（レバノン産）	2点	4,347円	購入：㈱ヴァイス
10	7月28日	エビ化石（レバノン産）	1点	11,178円	購入：㈱ヴァイス
11	12月28日	鉄礬柘榴石（山口県産）	1点	6,912円	購入：㈱ヴァイス
12	12月28日	トルマリン（ブラジル産）	1点	29,700円	購入：㈱ヴァイス
13	12月28日	黒水晶（中国産）	1点	6,210円	購入：㈱ヴァイス
14	12月28日	ルビー（アフリカ産）	1点	6,210円	購入：㈱ヴァイス
15	12月28日	PC Boul（オーストラリア産）	1点	25,704円	購入：㈱ヴァイス
16	12月28日	黄鉄鉱（ブラジル産）	1点	24,840円	購入：㈱ヴァイス
17	12月28日	トルマリン/水晶（ネパール産）	1点	29,700円	購入：㈱ヴァイス
18	12月28日	黒鉱（青森県産）	1点	7,560円	購入：㈱ヴァイス
19	12月28日	カリ長石（岐阜県産）	1点	6,210円	購入：㈱ヴァイス
20	12月28日	黒曜石（北海道産）	1点	6,804円	購入：㈱ヴァイス
21	12月28日	磁鉄鉱（南アフリカ産）	1点	18,630円	購入：㈱ヴァイス
22	12月28日	ワーゲノフィルムインディカム化石	1点	29,700円	購入：㈱ヴァイス
23	12月28日	ウニ化石	3点	8,532円	購入：㈱ヴァイス
24	12月28日	縞状鉄鉱化石	1点	9,558円	購入：㈱ヴァイス
25	12月28日	ヨコヤマビカリヤ化石	1点	20,142円	購入：㈱ヴァイス
26	12月28日	ハリシテス化石	1点	13,446円	購入：㈱ヴァイス
27	12月28日	ヘリオリテス化石	1点	8,586円	購入：㈱ヴァイス
28	12月28日	ファボシテス化石	1点	7,020円	購入：㈱ヴァイス
29	12月28日	アンモナイト化石	1点	29,808円	購入：㈱ヴァイス
30	12月28日	アンモナイト化石	1点	29,700円	購入：㈱ヴァイス
31	12月28日	オルソセラス化石	1点	8,640円	購入：㈱ヴァイス
32	12月28日	ウミユリ化石	1点	24,840円	購入：㈱ヴァイス
33	12月28日	カニ化石	1点	12,420円	購入：㈱ヴァイス
34	12月28日	エディアカラ化石	1点	29,700円	購入：㈱ヴァイス
35	3月24日	書籍『いま「山の日」制定』	1点	1,800円	購入：地域政策研究会
36	7月15日	書籍『空白の五マイル』	1点	1,600円	購入：塩原書店
37	12月12日	書籍『先生、子リスたちがイタチを攻撃しています』	1点	1,866円	購入：塩原書店
38	12月12日	書籍『先生、モモンガの風呂に入ってください』	1点	1,866円	購入：塩原書店
39	12月12日	書籍『先生、キジがヤギに縄張り宣言しています』	1点	1,866円	購入：塩原書店
40	12月19日	書籍『山岳科学ブックレット3 山と自然に魅せられて』	1点	1,008円	購入：塩原書店
41	12月19日	書籍『山岳科学ブックレット6 山・ひと・自然』	1点	1,008円	購入：塩原書店
42	12月19日	書籍『山岳科学ブックレット7 蝶からのメッセージ』	1点	1,008円	購入：塩原書店
43	12月19日	書籍『山岳科学ブックレット9 山に登った虫たち』	1点	1,008円	購入：塩原書店
44	1月23日	書籍『日本産アリ類図鑑』	1点	9,936円	購入：塩原書店
45	9月25日	山岳資料（書籍）(HANDBOOK FOR TRAVELLERS IN JAPAN　INCLUDING THE WHOLE EMPIRE FROM SAGHALIEN TO FORMOSA)	1点	54,900円	購入：株式会社雄松堂書店

2　資料保存管理

(1)　収蔵資料

①自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系　　合計　15,360 点	
菌類（液浸標本）	129 点	哺乳類（剥製・骨格標本）	237 点
蘚苔類（乾燥標本）	674 点	鳥類（剥製標本）	651 点
維管束植物（液侵標本）	7 点	昆虫（標本ドイツ箱）	258 点
維管束植物（さく葉標本）	＊6,000 点	昆虫（未標本作製資料を含む）	＊4,600 点
魚類（液浸標本）	62 点	昆虫（液浸標本）	27 点
両生爬虫類（液浸標本等）	72 点	その他液浸標本(調査研究資料)	103 点
貝・甲殻類（液浸標本）	13 点	岩石・化石	2,527 点

②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系　　合計　9,323 点	
山岳	7,379 点	寄託（山岳、美術）	610 点
民俗	932 点	（寄託内訳）	
美術	189 点	個人寄託　361 点※	
美術（尾竹正躬関係）	201 点	※うちﾋﾟｯｹﾙ関係　93 点	
歴史	12 点	団体寄託　249 点	

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系　　5,854 点	
自然科学系一般図書資料	5,638 点	自然科学系一般ＡＶ資料	216 点

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系　　39,822 点	
人文科学系一般図書資料	33,644 点	人文科学系一般ＡＶ資料	249 点
山岳資料としての図書資料（注[1]）	5,929 点		

（注[1]）山岳資料としての図書資料 5,929 点は、②人文科学系の山岳資料 7,379 点に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 64,430 点（平成 27 年 3 月 31 日現在）

⑥現状と課題

中長期を見据えた主体的・積極的な資料の収集計画が明確ではなく、現状として資料収集の方法は相手方からの資料寄贈・寄託の申し出に大きく依存している状況である

a.　自然科学系

地質分野の岩石・鉱物・化石については、資料カード（紙ベース）および最低限の検索・照会作業のＰＣ検索ができるように整理されている。

b.　人文科学系

山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、本年度、資料の収集・整理、保管の推進を重点事業に位置付けて事業実施に取り組んできた。人文科学系収蔵資料については、各分類における資料整理用紙の内容をすべてエクセルデータ化し、資料情報のデジタル管理が可能となった。これにより、パソコン上での資料情報の一元管理ができ、館内での事務処理や照会対応の業務において、担当職員による検索や閲覧等格段に容易となった。

さらに、館外からの資料情報の閲覧を可能とするために、これらのデータをもとにし、人文科学系の収蔵資料目録を作成した。目録を一般に公開することで、当館の資料コレクション管理だけでなく、博物館利用者による調査研究や教育普及といった面において、収蔵資料の利活用につながると考え、目録を当館公式ホームページ上に掲載し、公開を進めている。なお、公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、平成 27 年 4 月以降に公開し、以降、最新のデータに毎年更新する予定。

このほか、資料収集については、一次資料に関して未登録資料の新規追加登録作業を順次進めている。また、図書資料・二次資料の整理も同様である。登録済み資料に関しても、資料情報の追記

ほか、記録写真が未撮影のものや作図が未添付のものは、それらの作業を段階的に進めたい。収集方法については、特段の予算処置を行っておらず、寄贈・寄託の申し出を受けて収集にいたる場合が主であるが、近年の寄贈件数が過去平均の3倍程度となっており、寄贈件数は急激な増加傾向にある。そのため、資料整理作業が追い付いていない状況にある。過去の未登録資料を含め、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

(2) 保存管理

本館における資料保存管理については、防虫剤をパラジクロロベンゼンからエンペントリンに代替中である。ただし、開放空間では空間体積に対して有効量に達しないために殺虫効果が低く、殺卵効果はないため、定期的なシフェノトリン系忌避処理済による簡易ガス燻蒸を展示室5回、収蔵スペース5回の燻蒸を実施した。

今後ＩＰＭ（Integrated Pest Management）＝総合的有害生物管理に移行させるため、トラップによる害虫モニタリングを自然科学系（動物担当）が数年わたり実施してきたが、結果が得られず、来年度は専門業者へ業務委託し、害虫の侵入経路の特定、侵入種が資料に与える影響について考察し対策を講ずることとする。

なお山岳図書資料館への資料搬入には、事前に浸透性の高いフッ化スルフリル系製剤（ヴァイケーン薬剤）により24時間の包み込み燻蒸を行った。

Ⅱ　調査研究事業

1　調査研究

(1) カクネ里雪渓（氷河）調査（担当：小坂共栄・西田均）

従前より鹿島槍ヶ岳カクネ里は氷河圏谷であることは周知の事実であったが、日本国内には氷河は現存しないというが定説であった。

近年、ＧＰＳ（グローバル・ポジショニング・システム）の登場と精度の向上に支えられた調査により、北アルプス剱岳と立山に氷河が現存していることが確認された。

このことを踏まえ、カクネ里も氷河ではないかという期待が膨らみ、大町市においても調査の実施について考慮していたが、アプローチ、調査体制、調査経費の裏付け等々の問題から調査の実現には至っていなかった。

山岳博物館の人的要件の変化を受け、平成 26 年 5 月急遽 2 か年をかけて氷河調査を実施することが方向付けられ、信州大学と大町市の間で共同研究契約書を締結し具体的な作業に取り掛かった。

具体的には調査団（別表 1）を組織し、氷河調査に向け別表 2 による会議、予備調査等を行ったが、カクネ里雪渓上における氷体調査はアプローチの危険度から 26 年度本調査は中止となった。

また、市民をはじめ一般の方に北アルプスや氷河に関する知識を深め、調査の意義を理解していただくためのシンポジウム「日本アルプスと氷河」（平成 27 年 5 月 16 日開催）の準備が進められた。

【表１】調査団の体制

組織名称		カクネ里雪渓（氷河）学術調査団
代表者（団長）		小坂共栄（山博専門員・信大山岳科学研究所特任教授）
副代表者（副団長）		飯田肇（富山県立山カルデラ砂防博物館学芸課長）
構成団体	市立大町山岳博物館	小坂共栄専門員、宮野典夫館長、西田均指導員
	信州大学山岳科学研究所 信州大学理学部	小坂共栄 特任教授、鈴木啓助 教授、原山智 教授、 朝日克彦 助教
	長野県環境保全研究所	富樫均　主任研究員、浜田崇　研究員
	富山県立山カルデラ砂防博物館	飯田肇　学芸課長、福井幸太郎　主任学芸員
事務局（会計等事務局）		信州大学理学部
事務局（調査、調査団事務局）		市立大町山岳博物館

【表 2】会議、調査等

調査団第 1 回打合せ会議 平成 26 年 6 月 19 日	(山岳博物館)準備経過説明。調査団体制の協議と承認。今後の日程（予定）について協議確認。
アプローチ現地調査 平成 26 年 8 月 5 日～7 日	(遠見尾根～五竜山荘～カクネ里～キレット沢～カクネ里～遠見尾根)　西田　前原（立山ガイド）長谷部（白馬ガイド）
調査団第 2 回打合せ会議 平成 26 年 8 月 21 日	(山岳総合センター)9 月 6 日より、五竜山荘までヘリ、徒歩によるカクネ里入りとし、安全確保のためルート工作の実施を決定。
ルート事前工作兼ルート偵察 平成 26 年 8 月 27 日～29 日	(遠見尾根～シラタケ沢～遠見尾根)前原 北村 富山(全員立山ガイド)シラタケ沢の雪渓状況が絶悪。団員の安全確保困難と判断する。
本年度本調査断念の表明 平成 26 年 9 月 2 日	9 月定例市議会において、市長が本年度調査中止の報告。マスコミ報道となる。
調査団第 3 回打合せ会議 平成 26 年 10 月 2 日	本年度調査断念の経緯、状況報告。平成 27 年度調査に向けた安全確保、ヘリ活用の方向性の協議。
事前工作物処理兼雪渓調査 平成 26 年 10 月 17 日～19 日	(遠見尾根～シラタケ沢～カクネ里～遠見尾根)西田 松田 前原 富山　8 月末設置のザイル等の処理及び雪渓状況の調査。
臨時打合せ会議 平成 26 年 10 月 28 日	(立山カルデラ砂防博物館)山岳博物館、カルデラ博物館及び立山ガイドにより、27 年度調査に向けた問題点の検証を行った。
ヘリポート構築現地視察 平成 27 年 3 月 17 日	(白馬乗鞍岳)西田 前原 富山。平成 26 年に入手した情報等から調査団本隊のヘリ入山が可能に。雪上ヘリポート設営方法を調査。

(2) フクジュソウの種子散布に関する研究（担当：千葉悟志）

5 月下旬（4 日間）に長野県北安曇郡白馬村にある姫川源流において、長野県版レッドリスト（2014 年）において、準絶滅危惧にランクされるフクジュソウの種子散布について観察を行った。本研究は、平成 19 年度企画展「くさばなの一生－日本の草本・外来草本の生活史　その営みにせまる!!－」に反映させる目的で行ったものであるが、その後の調査で、生息するアリおよびそれらがどのように種子散布に関与するのか、またしないのかについて一応の結果が得られた。

このため、調査結果をまとめ共同研究者の尾関雅章氏（長野県環境保全研究所）とともに、「フクジュソウの種子発芽特性からみるアリによる種子散布の意義について」と題し、長野県植物研究会誌に投稿受理された。発行は平成 27 年 6 月末日予定。

なお、本研究では、長野県自然環境保全地域、白馬村文化財指定地での調査に際しては、白馬村教育委員会より許可を得て行った。アリ類の同定は吉村正志氏（沖縄科学技術大学院大学）および上田昇平氏（信州大学理学部）にお願いした。

アリの分布調査には、大町山岳博物館友の会会員である有川美保子氏、板橋和子氏、仙波美代子氏、細川武子氏、元村明代氏および宮澤陽美氏にご協力いただいた。

本研究は、2014 年 11 月 25 日にご逝去された清水建美先生にご指導を仰ぎながら進めたものである。

(3) 高山植物の生活史に関する研究（担当：千葉悟志）

本研究は、平成 29 年度開催予定の「くさばなの一生－高山植物の生活史　その営みとなぞにせまる！－（仮）」に反映させるためのものである。

本年度は、7 月 22 日～24 日の間に白馬大池でハクサンコザクラの花にやってくる昆虫の記録と写真撮影を行った。調査には、大北地域の湿地植物の生活史研究グループのメンバーに協力いただき、ハクサンコザクラの花粉媒介には、マルハナバチが主に関わっていることが予想される結果が得られた。その他にも、チョウ類やガ類の訪花の写真撮影をし、ハクサンコザクラの花にやってくる昆虫相を明らかにすることができた。

7 月 28 日～8 月 3 日の間、シナノナデシコの開花様式について観察を行った。その結果、花はナデシコ属特有の花冠（ナデシコ型花冠）で、午前 9 時ごろから咲き始めた。夕方になると閉花し、翌朝 7 時ころから再度開きはじめた。このことから開閉花であることが考えられた。

開花すると雄しべが花冠以高に伸びて現れるが、10 本すべてが現れるのに数日かかった。雌しべは雄しべが外側に倒伏したころに現れ、これらのことから雌雄異熟で、自家受粉を避けていることが考えられた。また、雌しべが機能を失っても花が維持されたままで、かつ花色が変化していく様は興味深く、スイカズラなどの花と同じ現象（効果）が生じていることが推測された。

なお、上記研究は、「白山高山植物研究会（石川県）」から種子および実生・成個体の提供を受けて実施しているものである。

(4) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測（担当：清水博文、宮野典夫）

平成 22 年 9 月 22 日よりライチョウの生息域である爺ヶ岳に温度・湿度・日射量を計測するデータロガを設置して観測を継続している。年間の最高気温は、平成26年7月26日13時10分の22.29℃、最低気温は、平成 27 年 2 月 9 日 8 時 10 分の-22.4℃であった。なおこうした博物館で収集したデータは、長野県環境保全研究所に提供して、山岳気象のデータとして活用をして頂いているところである

(5) 山岳風景画に関する現地調査（担当：関悟志・清水隆寿）

山岳博物館では、平成 27 年度に「山岳風景画の世界 ―山博収蔵コレクション―」と題した企画展を実施予定である。企画展の実施に向けて、大町市所蔵の山岳画に関する資料調査を実施した。この調査は、作品解説のための参考とするために、文献調査のほか、描かれた山岳画に関する現地調査を行い、作画のモチーフとなった山岳風景の現地の様子を確認して撮影記録した。具体的には、当館を含めた大町市が所蔵する美術資料のうち、明治期以降の作家による主に北アルプスなどの山岳を描いた山岳風景画（山岳画）の展示予定作品のなかから、調査場所にかかる山域において、作品の作画モチーフとなった（あるいは、なったと推測される）場所の山岳風景を確認の上、写真撮影して記録した。

期間・場所	平成 26 年 7 月 22 日～24 日	室堂、剱･立山連峰方面
	平成 26 年 9 月 30 日～10 月 2 日	上高地、穂高連峰方面

Ⅲ　教育普及事業

1　展示

(1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

①展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,057 点（平成 27 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 505 点、人文科学系　合計 552 点）

展示テーマ	資料点数※[1]	展示テーマ	資料点数※[1]
３階　展示室　「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 104 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	5 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロローグ	18 点		
２階　ホール　「山の成り立ち」ゾーン			計 67 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	23 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	19 点	驚きの北アルプス	23 点
北アルプスの生い立ち	1 点		
２階　展示室　「山と生きもの」ゾーン			計 433 点
立山の氷河・いまを生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	235 点
ニホンカモシカ	13 点	ライチョウ	32 点
溪谷の生物	35 点	湖の生物	60 点
湿原の生物	55 点		
１階　展示室　「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 423 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える ―針ノ木峠の歴史―	38 点	山に暮らす ―山の恵みと山村の暮らし―	84 点
山に祈る ―山の信仰―	19 点	「山と人」映像	1 点
大町山岳人列伝	10 点	山を測る ―測量―	5 点
山を調べる ―博物学―	23 点	山を描く ―絵画―	8 点
山を写す ―写真―	21 点	山で学ぶ ―日本の近代登山―	144 点
山に住まう ―山小屋の変遷―	28 点	登山の道具	23 点
山とのかかわりの窓		つながりコラム	5 点
１階　エントランス・ホール			計 8 点
「北アルプスの自然と人」導入	1 点	山とわたしたちの未来	
新・對山館サロン	1 点	こどもひろば	6 点
１階　特別展示室　「山と美術 ―山岳風景画とウッドシャフトピッケル―」※[2]			計 22 点
山岳風景画	16 点	ウッドシャフトピッケル	6 点

※[1] 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。

※[2] 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

②常設展アンケート（担当：関悟志）

ａ．アンケート調査の概要

・実施期間･･･平成 26 年 10 月 8 日（水）～平成 27 年 3 月 31 日（火）

・実施場所･･･山岳博物館 エントランス

・期間中の入館者数･･･合計 5,372 人

・アンケート回答数･･･82 件

・入館者に対する回答率･･･1.5%

ｂ．来館者等の傾向について（アンケート結果から）

ア　来館者について

60代の女性を中心とした2～3人の家族や友人で､観光旅行によって首都圏から自家用車を使い、初めて当館を訪れる方が多い傾向にある。

イ　来館に至った情報源について

知人などから聞いてという“口コミ”が最も多く、次いで、事前に情報は得ていなかったが、たまたま来館して知ったという方が比較的多い傾向にある。

ウ　当館の常設展について

北アルプスの自然や歴史について、予備知識が全くない、あるいは概要だけは知っていて、当館の常設展テーマについて関心が高いという方が多い傾向にある。

展示方法や展示資料、展示説明に対しては、興味深くとらえ、わかりやすく、よかったと評価する方が多い傾向にある。なかでも、とくに興味・関心を持ったコーナーは2階「山と生きもの」で、次いで3階「展望ラウンジ」、1階「山と人」、2階「山の成り立ち」の順に多い傾向にある。このほか、寄せられた意見の一部として、展示説明の多言語化（英語）、子ども向け展示説明や体験型展示の導入があった。

エ　付属施設の見学について

本館の展示のみ見学して、付属園を見学せずに帰る方が多い傾向にある。

ｃ．今後の対応について

展示改修をきっかけに26年度後期から取り組んだアンケート調査のため､年間を通じた調査結果ではないが、来館者や来館に至った情報源、当館の展示内容についての傾向をある程度把握することができた。今後、こうしたアンケート結果を参考にしながら、情報発信のあり方、現在の展示資料や展示情報の更新、次回の展示改修に向けた常設展の展示構成などを検討したいと考える。

(2) 企画展示

①中部山岳国立公園指定80周年記念、大町市制施行60周年・合併10年記念

企画展「日本山岳画協会　大町展」　（担当：清水隆寿）

a. 会　期：平成26年7月19日（土）～11月24日（月・祝）　※開催日数：117日間
第Ⅰ部　7月19日（土）～9月15日（月・祝）
第Ⅱ部　9月17日（水）～11月24日（月・祝）

b. 会　場：山岳博物館　特別展示室・講堂

c. 主　催：市立大町山岳博物館　日本山岳画協会
後　援：環境省長野自然環境事務所、ＮＨＫ長野放送局、ＳＢＣ信越放送、（株）テレビ信州、長野朝日放送㈱、長野エフエム放送本社、大町市有線放送電話農協、信濃毎日新聞㈱、朝日新聞松本支局、中日新聞社、讀賣新聞松本支局、毎日新聞松本支局、産經新聞長野支局、大糸タイムス㈱、民友信州、市民タイムス（全17社）

d. 概　要：平成26年度、創立78年を迎える日本山岳画協会（会員24名）により描かれた山岳風景画を展示。画家の描いた絵画から伝わる山岳美を感じ取っていただき、山の魅力の再発見と美しい山の姿を後世に残すことを伝えることを目的とした。
会期中、二部構成で第Ⅰ部テーマ「日本の山・世界の山」、第Ⅱ部テーマ「北アルプスを中心とした山岳画」と題して途中展示替えを実施し、約4ヶ月に渡り展示を行った。

e. 展示資料：日本山岳画協会会員各位より描かれた山岳風景画（総数97作品）で構成。会員各自が30号～50号の作品1点、10号～20号の作品1点の展示を行い、エントランスホール特別展示室入口壁面には、同会代表理事の武井清氏の作品「春の穂高連峰（槍ヶ岳山頂より）」100号を、開催期間中を通してシンボル展示した。

f. 関連事業：ア．オープニングセレモニー
日時：平成26年7月19日（土）、午前10時～午前11時30分
内容：主催者挨拶、来賓挨拶、日本山岳画協会挨拶、出品作家紹介、テープカット、作品鑑賞会（展示解説）等
参加者数：93人

イ．ワークショップ「画家の先生といっしょに北アルプスを描こう！」
日時：平成 26 年 8 月 7 日（木）午前 9 時～午前 12 時
参加者数：17 人（小学生対象）、保護者 10 人
内容：さんぱくこども夏期だいがくの一環として実施。市内小学生を中心に、北アルプスを描く絵画教室。
会場：大町公園及び大町山岳博物館、長野県山岳総合センター
講師：日本山岳画協会会員の若林晴男先生、中村勝久先生、千葉潔先生の 3 人

ウ．ギャラリートーク①
日時：平成 26 年 8 月 10 日（日）
参加者数：午前、午後合計 45 人
講師：武井清先生、若林晴男先生の 2 人
内容：期間中 4 回のギャラリートークを開催。各回とも展示会場を巡回しながら午前 10 時 30 分～と、午後 2 時～のいずれも 40 分程度の展示解説を行う。解説内容は、作品解説のほか描き方や現地でのスケッチや登山時のエピソードを交え説明を行った。以下のギャラリートークの内容は同様にて割愛。

エ．ギャラリートーク②
日時：平成 26 年 9 月 14 日（日）
参加者数：午前、午後合計 44 人
講師：中村勝久先生、千葉潔先生の 2 人

オ．ギャラリートーク③
日時：平成 26 年 10 月 12 日（日）
参加者数：午前、午後合計 34 人
講師：武井清先生、中村勝久先生の 2 人

カ．ギャラリートーク④
日時：平成 26 年 10 月 26 日（日）
参加者数：午前、午後合計 25 人
講師：若林晴男先生、千葉潔先生の 2 人

キ．ミュージアムカフェ・ショップ「もるげんろーと」が、期間中に日本山岳画協会会員の作品の販売を実施。

g．**入館者数**：12,076 人（有料 10,095 人、無料 1,981 人）

(3) さんぱく研究最前線　－北アルプスの自然と人　トピックス－（担当：清水隆寿）

2 階ホールにおいて、山岳博物館からの最新の情報や話題性のある情報を 3 ヶ月ごとに内容を入れ替えながら展示するもので、展示改修を機会に新設されたコーナーである。平成 26 年度には以下の 4 つの展示を実施した。

①テーマ「日本のライチョウは生き残れるか？～地球温暖化による危機～」（担当：千葉悟志）

a．**会　期**：平成 26 年 3 月 29 日(土)～6 月 30 日（月）

b．**概　要**：質問形式により、ニホンライチョウが地球温暖化による影響でどのような変化が推定されるのか、長野県環境保全研究所の堀田昌伸主任研究員に質問に答えていただく形で、自身が考えながら読み解く展示を行った。

②テーマ「針ノ木峠の歴史から北アルプスと人とのかかわりを探る」（担当：関悟志）

a．**会　期**：平成 26 年 7 月 1 日(火)～9 月 30 日（火）

b．**概　要**：北アルプス山中の針ノ木峠について、江戸時代以降の峠が持つ重要性について注目し、北アルプスと人との関わりを探った。

③テーマ「生業神・北安曇地方の「山の神」信仰（担当：清水隆寿）

a．**会　期**：平成 26 年 10 月 1 日(水)～12 月 27 日（土）

b．**概　要**：かつて山と人とが密接にかかわっていた頃には、馴染み深かった「山の神」。いま忘れ去られようとしている「山の神」の信仰について再考した。

④テーマ「大地震をきっかけに見つめ直す私たちの大地～2014 年 11 月 22 日発生の長野県北西部地震（神城断層地震）と近年の長野県地震から～」

（担当：津金達郎・小坂共栄・信州大学震動調査グループ）

a. **会　期**：平成 27 年 1 月 4 日（日）～3 月 31 日（火）

b. **概　要**：平成 26 年 11 月 22 日に白馬村を震源とする大きな地震が発生しました。その地震を引き起こすきっかけとなった神城断層とはどういう特性をもつのか。当地域で起こった地震の歴史とともに学べるものとした。

c. **その他**：地震が発生してま近ということもあり市民の方々が関心をもっており、また博物館からの教育普及活動の一環として、平成 27 年 4 月 14 日（火）～5 月 1 日（金）にかけ、大町市役所市民ホールにおいて同様の展示を実施した。博物館では市民の方でも有料になってしまう場合があることから、気軽に出かけられる市民ホールでの展示は今後とも機会があれば実施していきたい。

(4) 移動展示

①「第 10 回安曇野アートライン展」への参加と協力（担当：西田均）

a. **会　期**：平成 26 年 11 月 22 日（土）～12 月 23 日（火・祝）

b. **会　場**：国営アルプスあづみの公園〈堀金・穂高地区〉多目的ホール（安曇野市）

c. **概　要**：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを、国営アルプスあづみの公園〈堀金・穂高地区〉で展示。公園の来園者に安曇野のアートにふれていただいた。当館は山川勇一郎の「西穂小屋の窓から」「西穂の小屋」「穂高連峰」「山小屋の壁　スキー」「山小屋の壁　アイゼン」「山小屋の壁　ランプ」の 7 点を出品した。

②「銀座ＮＡＧＡＮＯ安曇野アートライン展」への参加と協力

a. **会　期**：平成 26 年 12 月 10 日（水）～12 月 13 日（土）

b. **会　場**：銀座ＮＡＧＡＮＯしあわせ信州シェアスペース（東京都中央区銀座）

c. **概　要**：平成 26 年 10 月オープンした同施設において「銀座ＮＡＧＡＮＯ安曇野アートライン展」が開催された。当館では山川勇一郎作「西穂独標にて」「乗鞍、西穂より」の 2 点を出品するとともに、加盟館が提供した来場者抽選プレゼントに、おおまぴょんクオカードを提供した。

2　教育普及活動

(1) 学習会等の開催

①「ふぞくえんまつり」

（担当：清水博文・清水隆寿・戸谷諭美・尾関美穂・木戸きらら・遠藤モナミ）

a. **開催日**：平成 26 年 4 月 26 日（土）～5 月 6 日（月・祝）　（延べ 11 日間）

b. **場　所**：山岳博物館 付属園

c. **参加者数**：延べ 815 人（子ども～大人）

（内訳）「どうぶつ写生大会」91 人※（子ども）

※写生大会については後日、学校授業での参加あり（東小 2 年生 26 人）

「どうぶつ観察ツアー」80 人（子ども 29 人、大人 51 人）

「ふぞくえんスタンプラリー」513 人

「おおまぴょんとあそぼう」131 人

d. **概　要**：付属園内の展示動物や風景を描く「写生大会」、展示動物を解説しながら園内を巡る「観察ツアー」、展示動物を絵柄にした手作りスタンプを押して集める「スタンプラリー」の 3 つに、今年から大町市の公式キャラクターの「おおまぴょん」とあそぼうのイベントを増やし魅力を高めることにより開催した。山岳博物館では、開館間もない昭和 28 年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成 9 年度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「付属園まつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

e. **所　見**：「どうぶつ写生大会」は、昭和 62 年度（同年度以降、日動水中部ブロック写生コンクー

ル参加）から、「どうぶつ観察ツアー」は平成18年度から（21年度までは「山博おもしろミニゼミ動物ウォッチング」）、「ふぞくえんスタンプラリー」（24年度までは春夏秋の年3回）は平成19年度から、それぞれ毎年実施してきている。市民、特に小学生以下の子どもを対象に、平成24年度までは個々の事業として実施していた上記の付属園に関わる教育普及事業を「付属園まつり」という名称を冠してまとめ、同時期に実施し今年は2年目にあたる。また、催し案内のリーフレット（カラー用紙に印刷機で印刷）を市内小学校の全児童に学校を通じて配布した。これらから、効率的で有効な告知・周知といった広報活動を行うことができた。市キャラクターの着ぐるみを活用し、来園者への参加呼び掛けや、子どもを中心とした参加者との交流を行ったが、子どもから大人まで大変好評であった。期間中、800人を超える延べ参加者があり、付属園の役割や飼育展示する野生動物の特性について広く知っていただく大変良い機会となった。

ア　どうぶつ写生大会（担当：清水隆寿）

付属園の飼育動物や園内風景を画題に写生し、野生動物の特徴をとらえるとともに、動物愛護の精神を高めて命の大切さを知っていただいた。写生大会終了後、全参加作品は「どうぶつ写生画展」として博物館にて展示後、各園校を通じて返却した。また、優秀作品23点を選出し、日本動物園水族館協会中部ブロック写生大会に応募した。

開催日は4月26日～29日、5月3日～6日で、対象は幼児から小学生・中学生まで。

a. **共　催**：日本動物園水族館協会中部ブロック

b. **後　援**：日本動物園水族館協会

c. **参加作品数**：91点（園児11点、小学生80点、中学生0点）なお、作品数には後日行われた、学校授業での参加を含む。

d. **概　要**：日本動物園水族館協会中部ブロックが目的としている児童・生徒の動物愛護精神を高め、描画教育並びに、文化の向上と親善をはかることをかんがみ、大町市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にして、動物を観察して親しみながら写生を楽しむ機会とした。作品は第59回中部ブロック動物園水族館写生大会への応募を行う。

e. **所　見**：日本動物園水族館協会が開催する同写生大会への参加は、山岳博物館としては本年で27回目となる。本年度の写生大会参加者内訳は、未就学児・保育園・幼稚園合わせて11人、小学生が80人と昨年度比とほぼ同数を維持した。盛会時には150人を超える参加者があったが、近年の生徒数の減少を考慮し、本年度は表彰者数を10人減らして実施した。年間を通じてこれだけの短期間に市内の子供たちが博物館に集まる機会は少なく、今後はさらに写生大会と様々な関連イベントと組み合わせて一層魅力を高めることにより継続して実施していきたい。

f. **関連事業**

・どうぶつ写生画展

「大町山岳博物館　どうぶつ写生画展」として、参加作品すべてを6月21日（土）～7月6日（日）（開催日数は、14日間）に山岳博物館講堂において展示した。

・写生画審査会

5月20日（火）に市内小・中学校の先生7人による審査で、長野県知事賞はじめ23点を選出し、中部ブロック動物園水族館写生大会への応募を行う。

・写生画表彰式

写生画表彰式は7月6日（日）午後3時から山岳博物館講堂において執り行い、荒井教育長、宮野館長より、それぞれ入賞者23人に賞状と盾を授与した。

イ　どうぶつ観察ツアー

来園者と一緒に飼育員・学芸員が付属園の飼育動物を解説しながら園内を回ることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただいた。

a. 開催日は、4月26日（土）・27日（日）・29日（火）、5月3日（土）～6日（火・祝）

ウ　ふぞくえんスタンプラリー

付属園内に設置したオリジナルスタンプを楽しみながら押して集めることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただいた。スタンプは飼育員によるオリジナルスタンプを設置。

a. 開催日は、4月26日（土）～5月6日（火・祝）

エ　おおまぴょんとあそぼう

大町市の公式キャラクターのおおまぴょん（ニホンカモシカをモチーフ）の演出により、学芸員

がニホンカモシカの生態などの特徴について解説を行った。
a.開催日は、4月29日（火）、5月5日（月）

②「常設展スポットガイド」（担当：関悟志・清水隆寿・千葉悟志・小坂共栄）

a. **開催日**：（春）平成26年4月26日（土）・27日（日）・29日（火･祝）、
5月3日（土･祝）・4日（日･祝）・5日（月･祝）
（夏）平成26年7月19日（土）・20日（日）・21日（月･祝）
8月15日（金）・16日（土）・17日（日）
（秋）平成26年11月1日（土）・2日（日）・3日（月･祝）
※延べ15日（春6日、夏6日、秋3日）、1日2回で全30回

b. **時　間**：（春）各日とも　1回目･･･午前11時30分～、2回目･･･午後3時30分～
（夏･秋）各日とも　1回目･･･午前10時30分～、2回目･･･午後2時30分～
※各回の所要時間は20分程度、午前・午後とも内容は同じ

c. **場　所**：市立大町山岳博物館 館内ほか

d. **対　象**：観覧者（大人～子ども）

e. **参加者数**：合計218人（平均：約14人／日）
（春：延べ6日・90人、夏：延べ6日・104人、秋：延べ3日・24人）

f. **概　要**：新しい展示となった常設展について、毎回、各展示コーナーの具体的な展示資料など、展示のみどころを学芸員や専門員が来館者に解説した。常設展の展示解説を行うことによって、来館者に、展示内容により一層の興味をもっていただき、展示資料についてさらに詳しく知っていただく機会とした。専門員・学芸員の計4人により、各回の解説担当者1人が各回の実施5分前に館内放送で案内し、各開催階に集合した参加者と一緒に展示を見学しながら解説を行った。

g. **所　見**：常設展改修によってリニューアルオープンした年であり、こうした展示解説を年間通じて実施した。本催しは単年度での企画・実施の事業であったが、来館者に展示の解説を行ったり、逆に展示の感想をお聞きしたり、直接的な交流を図ることは、教育普及の面や今後の展示の充実のために重要と考える。今後も可能な限り、来館者が多い時期の週末などには職員が展示室に立つ機会を持ちたい。さらに、今後の館内での展示案内や解説の充実を図るための体制づくりとして、友の会サークル「ボランティアの会」会員への協力を一層求めるとともに、ボランティア養成について、当館としても中長期の計画を持って取り組みたい。また、展示効果を一層高めるため、各展示コーナーの概要を解説したリーフレットの作成を今後検討したい（現在、2階展示室内にライチョウとセミについて紹介した各リーフレットを設置しているが、このような形式のものを充実させるなど）。こうしたリーフレットを展示解説の際に参加者へ配布したり、各展示コーナーに設置して希望者が自由に持ち帰れるようにしたりし、展示と連動した印刷物の充実を図っていきたい。

③－１　さんぱくこども夏期だいがく①（担当：清水隆寿）
「画家の先生といっしょに北アルプスを描こう！」

a. **開催日**：平成26年8月7日（木）

b. **場　所**：写生会会場は、大町公園周辺、講評は山岳総合センター、日本山岳画協会の皆さんの絵画作品の鑑賞は博物館展示室において開催。

c. **参加者数**：小学校1年生～6年生を対象として実施。
子ども17人、大人10人。合計27人。

d. **所　見**：企画展「日本山岳画協会　大町展」では、最新の山岳風景画をご覧いただける機会にあわせ、小学生を対象とした北アルプスを描く絵画教室を企画した。また写生会の講師、講評あるいは展示解説にも日本山岳画協会の先生方にもご協力いただき実施した。子どもたちに絵を通じ、山への親しみを深める関心をもってもらう機会とし、併せて芸術や美術の楽しさや奥深さを子供たちに味わっていただくことを目的に開催した。
3 時間という限られた時間ではあったが、子どもたちは北アルプスを凝視して飽きずに集中し、充実した絵画教室となった。同伴した保護者の方々にも急遽、絵を描くよう促し、子ども以上に喜々として描かれていた姿をみるにつけ、大人を対象とした絵画教室、あるいは親子の絵画教室などを今後計画し、親と子の触れ合いの機会として山を仲立ちとして取り組んでいきたい。

③－２　さんぱくこども夏期だいがく②（担当：清水博文・清水隆寿）
「みんなで温暖化ウォッチ「セミのぬけがらを探せ！」」

（長野県環境保全研究所　平成 26 年度自然ふれあい講座（第 4 回）を兼ねて開催）

a. **開催日**：平成 26 年 8 月 8 日（金）

b. **主　催**：市立大町山岳博物館

協　力：長野県環境保全研究所飯綱庁舎（温暖化ウォッチャーズ担当）、セミの抜け殻しらべ市民ネット、自然観察指導員長野県連絡会

c. **場　所**：大町公園周辺、博物館講堂

d. **参加者数**：小学生 19 人・大人 4 人　合計 23 人　（子どもの内訳：大町市内 16 人、長野県内 3 人）

e. **所　見**：長野県内で身近なところで起きている自然の変化の記録を持ちより、本当に温暖化などの変化が起きているのかを、セミの抜け殻を探す調査や観察を通して、地球環境の在り方を考えていただく事を目的に開催した。

　セミの抜け殻を探し出す作業を通じ、セミの種類がわかり、その地に住むセミの気候環境が理解でき、その増減の変動を毎年調べることにより気候の変化を確認しようとするものであり、どのような場所に暮らすのか様々な生態的な調査も体験でき、自然に対し子供たちが興味を深めることができた。

④平成 26 年度 山博博物館・長野県環境保全研究所・山博友の会・環保研友の会 共催事業

「茶臼山動物園でライチョウを観察してみよう！」（担当：千葉悟志・清水隆寿）

a. **共　催**：長野県環境保全研究所・大町山岳博物館友の会・長野県環境保全研究所友の会

b. **開催日**：平成 26 年 5 月 11 日（日）

c. **場　所**：長野市茶臼山動物園

d. **参加者数**：21 人（一般参加者 6 人・友の会会員 15 人）（内訳：大人 15 人）

e. **概　要**：本事業はライチョウ関連の第 2 弾で、この度は鳥類の専門家であり、爺ヶ岳で環境モニタリングを実施し、予測にあたられている長野県環境保全研究所研究員より、ニホンライチョウの現状や予測について詳しく聞くとともに、スバールバルライチョウを飼育している長野市茶臼山動物園を訪ね、スバールバルライチョウを用いた域外保全への取り組み、形態的・生理的特徴やニホンライチョウとの違いなどを同園学芸員から聞き、それらを通して日本のライチョウへの興味・関心、理解を高め、また、高山環境について考える機会とすることを目的として実施した。

f. **所　見**：募集人員（40 人）に対して、参加者は 21 人で（参加率 52.5%）、期待以上に参加者を得ることができなかった。アンケートでは、5 月中は日程調整をするのが難しいとの意見があり、開催時期を検討する必要があると感じた。大町市から動物園までの間、バスによる移動時間を利用して、人文科学系の学芸員が同行し、旧大町スキー場開発や旧中村家住宅、天狗伝説、善光寺地震の解説を行い、有意義に過ごしていただくようにしたことで、概ね、良好な意見をいただいた。また、地質に精通した友の会会員に茶臼山の地すべりなどについて解説いただき、参加者への付加価値を高めた。アンケート結果から、本事業のねらいはほぼ達成できたと考えられた。

⑤平成 26 年度　大町市施行 60 周年・合併 10 周年記念事業

「大峰山地の自然なぞ解きトレッキングツアー」（担当：清水隆寿・千葉悟志・小坂共栄）

a. **共　催**：大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成 26 年 7 月 21 日（月・祝）

c. **場　所**：〔目的地〕大町市大峰山地（東山）鷹狩山山頂

〔コース〕山岳博物館－旧山の子村－鷹狩山－乗鞍峠－霊松寺－山岳博物館

d. **参加者数**：23 人（一般参加者 14 人・友の会会員 9 人）（内訳：大人 19 人・子ども 4 人）

e. **概　要**：大町市の東に位置する大峰山地に、その誕生の謎を探索しに、地質の専門である小坂共栄専門員と一緒に謎解きに出かけるという趣向で実施した。現地において地層や岩石を自分自身の目で見ることによって、大峰山地の成り立ちを理解し、大町の新たな魅力を再発見する機会となった。

　また道中では、周辺の植物や歴史の話など博物館学芸員からのレクチャーも行った。

f. **所　見**：アンケートによると、参加者の内 7 割以上がこれまで何らかの機会に目的地の鷹狩山を訪れている馴染みの山である。しかしテーマが地質ということで、なかなかこの分野のお話を聞く機会もなく、加えて今回は実際に現地を訪ね、地層や岩石を手に取りながら話を聞ける機会ということで、大半の参加者が興味・関心を抱き、好評を得た。

　博物館の背後の東山一帯は、フィールド活用の場として、今後さらに有効的な活用を求められる

地域と期待されているが、今後はさらに様々な情報の発信を実施し、「大峰山フィールド・ガイドブック」などの作成へとつなげていければと思う。併せて一帯の整備の為、解説板を作成するなど様々な展開が期待されるところであるが、東山一帯の全体的な構想を練り、計画的に事業を進めて、この地域の有効活用を図りたい。

⑥「古道 塩の道を歩く ―大町宿―」（担当：関悟志・清水隆寿）

a. **共　催**：大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成 26 年 10 月 13 日(月･祝)

c. **場　所**：塩の道ちょうじや・大町市街地周辺

d. **参加者数**：12 人（一般参加者 1 人・友の会会員 11 人）（内訳：大人 12 人）

e. **概　要**：大町山岳博物館友の会では平成 19 年に日本海をスタートし、西回りコースによって北から南へ毎年リレー形式で千国街道「塩の道」をたどってきたが、昨年ついに大町まで到達した。昨年から市立大町山岳博物館と友の会の共催事業として開催し、友の会会員のほか、大町市民にも広く参加していただける催しとして実施。平成 19 年度以前、平成 13 年度から、塩の道東回りコースなどの一部を歩いており、それらを合わせると今回は 14 回目となる。今回は、そうした古道歩きの完結編として大町市街地の「大町宿」コースをゆっくりと歩いた。当日、コース上の各ポイントで講師から解説を受けて、往時の宿場町の様子を想像しながら街を散策。その後、過去に歩いたコースをふり返りながら、塩の道の全体像について講師にご講演いただき、塩の道の歴史文化を現代につなぐ「塩の道ちょうじや」を見学し、塩の道の歴史と民俗について学んだ。

f. **所　見**：地域の歴史・民俗を広く知っていただく良い機会になった。なお、本事業は昨年から友の会との共催という形で実施し、今回は友の会で従前から実施してきたテーマで事業実施したが、今後、取り上げるテーマは山岳博物館ならではの「北アルプス」を中心としたものを検討する必要があると考える。各探訪ポイントでは講師に詳しく説明いただき、千国街道と大町宿をめぐる往時の様子や当時の人びとの生活などにふれることができた。また、過去に歩いたコースをふり返りながら、塩の道の全体像について講師から解説をいただき、塩の道の歴史・民俗を学ぶ総括として有効であった。一般参加者は 1 人のみで、そのほかは全て友の会会員であった。参加者が定員の 6 割であったことと、参加者の内訳をみると大町市民が 1 割弱であったことから、当初計画した事業目的の対象者の興味・関心を十分にひくことができなかった。本行事は一昨年まで友の会単独事業として実施し、昨年から共催事業として実施したが、直近の過去 3 年間は 15 人前後の参加者で、定員を割り込む状況であった。この点からも、今後、視点をかえた催しの企画を検討する必要があると考える。当日のスタッフとして、博物館職員と友の会運営部員が、それぞれ 2 人の人員を出し合い、下見を含めて役割分担したほか、経費面でも両者で負担し合うことで、より効率的な事業実施ができた。

⑦大町市市制 60 周年合併 10 年記念　大人のための観察会「冬のライチョウを見に行こう！」

（担当：宮野典夫・西田均）

a. **共　催**：大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成 27 年 3 月 8 日(日)

c. **場　所**：北安曇郡小谷村　栂池自然園

d. **参加者数**：25 人（一般参加者 10 人・友の会会員 15 人）

e. **概　要**：厳冬期のライチョウに関して、その生活が明らかになってきたのはここ数年であり、一般にはまだ知られていない部分が多い。平成 19 年より、白馬乗鞍周辺で一年を通してライチョウの生態調査を実施している山岳環境研究所の肴倉孝明さんに生息現地において、ライチョウがどのような場所でどのような生活を送っているのかをレクチャーいただき、ライチョウや環境を観察して、ライチョウ及びライチョウを取り巻く環境について考えていただく機会としたが、糞や足跡を発見することはできたが、姿を観察することができなかった。しかし、越冬時のライチョウ生息の環境について体感できた。

f. **所　見**：広報おおまちへの不掲載やＰＲ不足があったが、定員（20 人）を超える参加者がいたことは当企画に関心が高かったと考えられる。また、ライチョウの保護増殖事業を進める上でも、生息現地での観察会は教育普及面からみても有効と考えられる。

　参加者には目的を理解していただき、観察会の事前学習会を兼ねた講演会で予備知識を得た上で、ライチョウの生活する環境に触れることで、ライチョウへの理解と関心を深めていただくことがで

きた。

実施時期がライチョウの高山への移動時期と重なり、実際にライチョウの姿を観察することができなかったので、もう1週間か2週間早めた方が良かった。参加者からは再実施の希望があった。また、事前学習会で現地状況の写真説明、装備等のリストを配布し説明をしたにも拘わらず、重量のあるカメラレンズを持ち飲み物等を持参しない参加者があり、体力的な問題もあり途中でバテる事態があったなど今後への課題が生じた。雪崩の発生する場所であり、雪山登山の経験者3人にサポートしていただいて実施することができた。

g．関連事業：「大人のための観察会ー冬のライチョウを見に行こうー」の事前学習会を兼ねた講演会を2月22日（日）に実施した。一般参加も可能としたが、定員（50人）に対して40人（全員大人）の参加にとどまった。内容はライチョウの通年の生活史と冬のライチョウの特性や冬の生活地である亜高山の環境について、現地での指導者である山岳環境研究所の肴倉孝明さんに講演いただいた。一般参加者（15 人）のアンケートによると、ライチョウのことを知っているが 75%、講演のテーマ・内容に関心のあった方は58%、内容については92%の方が興味深く感じていた。

(2) 学校との連携・融合（調整：関悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数	指　導
5月16日	理科・学校のまわりの動物（農具川周辺）	大町東小3年	26	清水博
5月23日	見学学習	東京コミュニケーションアート専門学校	24	宮野、戸谷
6月3・4日	職業体験学習 動物飼育	第一中2年	2	戸谷、尾関、木戸
6月18・19日	職業体験学習 動物飼育	八坂中3年	2	戸谷、尾関、木戸
6月19日	キャンプ学習・青木湖周辺の自然・歴史について（青木湖キャンプ場）	大町西小5年	54	千葉、清水隆
6月25日	国語・大町紹介パンフレット作成の取材	大町西小6年	2	関
7月10日	社会科・大町市の土地利用	大町南小3年	59	関、千葉
7月21日・8月5日	教員研修	大町東小教諭	1	宮野、清水博、小坂、西田、清水隆、千葉、関
7月23・24日	職業体験学習 動物飼育	白馬中3年	2	戸谷、木戸、遠藤
7月25日～8月3日※7/29除く	動物飼育研修・インターンシップ	東京コミュニケーションアート専門学校2年	1	清水博、戸谷、尾関、木戸、遠藤
8月1日	自然観察会（親海湿原）	大町高校2年4組	40	千葉
8月18日	職員研修・館内見学	大町北小教諭	16	関
8月22日	総合的な学習・理科学習 動物	大町北小4年	60	清水博、関
8月29日	総合的な学習「大町市の観光名所を映像で紹介・館内展示撮影」	仁科台中3年	5	関
9月3日	総合的な学習・大町市を知る「自然・山岳」（針ノ木自然遊歩道）	仁科台中1年	15	清水博
9月3日	総合的な学習・「仁中タイム」 大町市の自然について	仁科台中1年	5	関
9月3日	総合的な学習・「仁中タイム」 観光・自然について	仁科台中1年	2	関
9月3日	総合的な学習・「仁中タイム」 観光・登山の歴史について	仁科台中1年	4	関
9月3・4日	職業体験学習 動物飼育	仁科台中2年	2	戸谷、尾関、木戸、遠藤
9月10日	総合的な学習・植物	美麻小4年	7	千葉
9月12日	学校との連携授業・理科	美麻小4年	7	清水博
9月12・19日、10月10・17日	総合的な学習・動物	美麻小6年	2	清水博、宮野
9月25日	社会科見学「長野県の自然と観光」	須坂市立仁礼小4年	45	宮野、清水博

9 月 27 日	信州大学・読売新聞長野支局連続市民講座「岳問のすすめ」	一般	80	関
9 月 30 日	社会科見学・土地利用	大町北小 3 年	60	清水博、千葉
10 月 7 日	学校との連携授業・理科	大町南小 4 年	50	宮野、清水博
10 月 7 日	学校との連携授業・社会科	大町南小 4 年	50	関
10 月 7 日	クマについて（大町東小）	大町東小全校児童	221	宮野、木戸
10 月 13 日	爺ヶ岳の山名について	大町北高 1 年	1	清水隆
10 月 21 日～31 日※10/26 除く	動物飼育研修・インターンシップ	東京動物専門学校 2 年	1	宮野、戸谷、尾関、木戸、遠藤
10 月 23 日	学校との連携授業・理科	大町東小 4 年	39	宮野、千葉
10 月 23 日	学校との連携授業・社会科	大町東小 4 年	39	清水隆、関
10 月 23 日	理科授業・地質	八坂小 6 年	14	小坂
10 月 30･31 日	職業体験学習 動物飼育	美麻中 2 年	1	戸谷､尾関､木戸､遠藤
11 月 13 日	SHG（ｽｰﾊﾟｰｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾊｲｽｸｰﾙ）課題研究・北アルプスと観光について	長野高校 1 年	4	関
11 月 20 日	学校との連携授業・理科	大町西小 4 年	50	宮野、千葉
11 月 27 日	立川市への紹介映像等取材	大町北小 6 年	35	宮野
12 月 10･11 日	職場体験学習 動物飼育	大町北高 1 年	2	戸谷､尾関､木戸､遠藤
1 月 26 日	北安曇教頭会・野生動物への対応について（北安曇教育会館）	教頭・副校長	21	宮野
2 月 14 日	理数科研究課題発表会	大町高校理数科	100	小坂
2 月 27 日	学校との連携授業・社会科	美麻小 4 年	7	清水隆
実施回数：41 回（延べ 68 日）		学校数：18 校（延べ 40 校）	人数合計：1,158 人（延べ 1,193 人）	

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（担当：関悟志）

a. **実施日**：上記のとおり　※10～2 月の間に、市内 4 小学校により延べ 5 日(7 回)実施

b. **場　所**：理　科：2 階「山と生きもの」、付属園
　　社会科：1 階「山と人」、3 階「展望ラウンジ」

c. **参加者数**：市内小学生 250 人（4 学年）※このほか各小学校教諭引率

d. **概　要**：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成 22 年度から 2 ヶ年、大町南小学校をモデル校に 4 年生の理科授業（動物）を年 1 回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。そうした試行期間を経て、24 年度から新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。

　これにより、実施校数を広げるとともに複数の教科の学習プログラムを作成して実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の定着をめざす。

　同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

・連携授業：プログラム 1　理科・4 学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」
　　（学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ）

・連携授業：プログラム 2　社会科・4 学年「郷土に伝わる願い」（学習素材：百瀬慎太郎）

e. **所　見**：2 年間の試行期間を経て、昨年度から実施希望校を募って本格実施した事業である。事業実施に際し、市内小学校の理科担当教諭等が集まる市科学振興会理事会にて本事業の事前説明を行ったほか、市内校長会で説明依頼を行い、実施希望校の受け付けを行った。その結果、市内小学校全 6 校のうち、4 校（北小学校・八坂小学校以外）から希望があり、理科と社会科の授業を計 7 回実施した。昨年度 3 月の展示改修工事によって、これまで実施してきた理科・社会科の連携授業より一層教科内容に対応した展示内容となった。今年度は、展示内容に沿った形での授業の流れやワークシートの編集の点で改善を加えて実施した。各学校の校外活動予定や授業進度状況によっては、実施へ向けた調整が難しい場合もあったようである。事業全体では、過去の反省点などを活かした

形で内容を改善して作成してきたプログラムとワークシートによって効果的に実施できたので、必要かつ有効な事業と考える。

今後は、本年度希望がなかった学校（2 校）にも実施していただけるように働きかけ、市内小学校全6校で完全実施していただけるようにしたい。博物館を利用した各教科の授業を小学校に定着させ、実施校数を広げるとともに複数の教科の学習プログラムを作成して実施回数を増やしたい。

現在実施中のもの以外でも、各教科での学習プログラムを提案できるように検討して実施したい。また、学校との連携授業以外に、学校との連携・融合の調整に関することとして、博物館の展示を利用した学校での総合的な学習、登山事前学習、各教科学習などにおいても、これまでの各校での事例をふまえて、博物館を利用した学習プログラムを提案していきたい。

(3) 博物館実習の受入（調整：関悟志）

期　日	実 習 者	人員(人)	指導
8月5日(火) ～8月9日(土) 計5日間	帝京大学文学部史学科4年 信州大学教育学部4年 京都女子大学現代社会学部現代社会学科4年 帯広畜産大学畜産学部畜産科4年	4	宮野・清水博文・小坂・西田・清水隆寿・千葉・関

博物館法施行規則第2条（博物館実習）第1項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために、大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

近年の傾向とは異なり、本年度は、市内を含む県内出身・在住の学生が中心であった。しかし、当館での実習志望の理由は例年と同様であり、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したためで、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。また、学生が受け入れ先の博物館等を探すことは困難のようで、毎年受け入れ実績がある当館への学生のニーズは高いことがうかがえる。そうした全国の実習希望の学生とのマッチングの手法として、文部科学省が平成21年に示した「博物館実習ガイドブック」を参考にして、昨年度から、当館での博物館実習の実施計画をHP上に公開した。本年度の申込者全員が、このHP上の情報を確認して照会を行っており、有効であった。一方、当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の1日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付したことで、指導担当職員と学生の両者で個々の実習日の概要について把握できたので効果的であった。

(4) 学習会等への協力（調整：関悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	主　催	参加者	指　導
5月17日	ふるさとの春を歩こう・雪形説明（野口大宮神明宮）	大町青年会議所	20	関
5月18日	友の会サークル「花めぐり紀行」（斑尾高原花園・大谷池）	山岳博物館友の会	5	千葉
6月21日	初心者のための山野草講座（平公民館）	平公民館	20	千葉
6月28日	友の会サークル「花めぐり紀行」（高山市荘川町）	山岳博物館友の会	8	千葉
7月24日	親子教室「すくすく広場」	大町公民館	60	清水博
8月8日	山岳博物館の紹介など（八坂小児童クラブ）	八坂小児童クラブ	5	関
8月24日	夏休みエコスクール（板橋区立	板橋区立エコポリスセ	40	小坂

	エコポリスセンター)	ンター		
8 月 27 日	親子教室「ともだち広場」	常盤公民館	50	関
9 月 2 日	高齢者学級（美麻公民館）	美麻公民館	26	小坂
9 月 6 日	大人の遠足　信濃大町でバスツアー	FM 長野	54	宮野、関(友の会サークル「ボランティアの会」)
10 月 4 日	PTA 親子レクリエーション	大町西小 4 年 2 組 PTA	60	関
10 月 18 日	地域学習会・地学（中山高原、鷹狩山）	賢治童話を楽しむ会	20	小坂
10 月 21 日	高砂大学・郷土視察	八坂公民館	51	清水隆、関
11 月 1 日	施設めぐり 「ダムと博物館」めぐり	平地区子ども会育成協議会	21	関
1 月 21 日	長野県自然保護レンジャー・自然観察インストラクター等研修会	長野県北安曇地方事務所環境課	50	関
2 月 15 日	信州山岳環境魅力発信フォーラム（長野市東部文化ホール）	長野県自然保護課	230	宮野
実施回数：16 回（延べ 16 日）		団体数：15 団体（延べ 16 団体）	人数合計：720 人（延べ 720 人）	

上記以外に、下記の各種事業に協力した。

①雪形まつり（担当：清水隆寿）

第 13 回北アルプス雪形まつりに併せて、山岳博物館では実行委員会に加わり、雪形ウォッチング部門の展示及び企画を担当した。なお大町市文化会館で行った「北アルプス雪形まつり」のイベントは平成 26 年 6 月 8 日（日）に実施された。

a. **会　期**：〔雪形写真展〕平成 26 年 5 月 10 日(土)～6 月 8 日(日)（30 日間）

b. **会　場**：キャラリーい～ずら(二階展示場)

c. **見学者数**：約 400 人

d. **概　要**：キャラリーい～ずらの展示場で、雪形写真パネルの展示（約 45 作品）と雪形ビデオ上映をし、「雪形写真展」を実施し解説を行った。

e. **関連事業**

・雪形講演会　5 月 10 日(土)、5 月 17 日（土）
大町温泉郷森林劇場を会場に、あづみ野雪形研究会・会長の渡辺逸雄氏により「北アルプスの雪形」と題した講演会を開催した。大町温泉郷「雪形の夕べ」と題する観光協会主催のイベントの中での約 30 分間の講演会であった。参加者は、5 月 10 日(土)が約 100 人、5 月 17 日（土）が約 30 人。

・「雪形ウォッチング」は、5 月 18 日（日）、5 月 24 日（日）の 2 日間、北アルプス各地の小谷村地区から南は安曇野市豊科地区にかけて見学ルートをマイクロバスを利用して見学会を開催。講師は渡辺逸雄氏、宮澤洋介氏ほか、博物館職員が行い、参加者は 2 日間の見学会で合計 21 人。

なお、21 人の参加者のうち、大町市民は 10 人、長野県内の方は 2 人、県外の方は 9 人。

②市民登山（担当：西田均）

a. **開催日**：平成 26 年 9 月 5 日（金）～7 日（日）

b. **場　所**：計画：燕山荘～槍ケ岳～上高地
実施：燕山荘～常念小屋（雨天のため変更）

c. **参加者数**：30 人

d. **概　要**：市体育課社会体育係で開催した第 64 回大町市民登山のしおりの原稿協力を行った。なお今年は館職員の随行はなかった。

e. **所　見**：大町市制施行 60 周年・合併 10 年記念と銘打ち実施された第 64 回の大町市民登山であったが、今年はあいにく途中で降雨にたたれ、1 泊目に燕山荘に宿泊し、翌日燕岳に登頂し、2 泊目が常念小屋に宿泊しそのまま天候が好転しなかったため下山となった。

③信州・大町　山の子村キャンプ　福島の子どもたち保養プログラム（担当：宮野典夫）

福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子とも達に、心身の保養をし

ていただく環境を大町に整えて過ごすことを目的とした信州･大町 山の子村キャンプ実行委員会に共催として加わり、プログラムのサポートや山岳博物館見学を担当した。

a. **会　期**：平成 26 年 8 月 5 日(火)～8 月 11 日(月)

b. **会　場**：旧山の子村を中心に、大町市総合福祉センター、鷹狩山等

c. **参加者数**：小学生 19 人、中学生 1 人

d. **概　要**：今回の山の子村キャンプでは、体験型メニューをいくつか用意して、その中から「自分の好きなこと」「とことんやりたいこと」を自分で選んで仲間と遊びながら体験することを主眼とし、昨年度まで実施した山の子村以外への見学会の縮小や安曇総合病院にて血液検査と触診による甲状腺検査などは行わず、一カ所に留まって、大町の自然環境を体験できるキャンプであった。

e. **所　見**：子どもたちは、集団生活の中で充実した時を過ごすことができたようである。感想としてはふだん経験のしにくい火おこし､ハンモック､ターザンロープなどが印象に残ったようである。雨の日が多く、その対策でスタッフが苦労した面があった。

④信濃大町山岳フェスティバル 2014（担当：関悟志）

a. **期　日**：平成 26 年 9 月 13 日（土）

b. **会　場**：大町公園・長野県山岳総合センター・山岳博物館一帯

c. **参加者数**：約 1,200 人

d. **概　要**：信濃大町山岳フェスティバル実行委員会主催によって今年はじめて開催された本催しは、長野県民共通の財産であり、貴重な資源である「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくとする「信州山の日」制定の趣旨にもとづき、全 3 日間の日程で行われた。開催に際し、山岳博物館では実行委員及び幹事会の構成員となり、イベントの準備・運営に協力した。メイン会場となった大町公園の芝生上には、北アルプスの山並みをバックにした特設ステージが設置され、野外ライブが行われた。また、ステージでは、長野県内のテレビやラジオで活躍するゲストを招いてのトークショーが行われ、当館の学芸員も出演した。このほか、公園内に各種飲食ブースが出店し、地元の食を楽しむこともできた。山岳博物館では当日、下記内容のイベントを実施した。

ア　無料開放

終日、どなたでも博物館へ無料で入館いただいた。（入館者数：388 人）

イ　スポットガイドツアー

博物館のスタッフが館内や付属施設を案内しながら、各展示コーナーの解説を行った。1 日 5 回実施。時間はいずれも 20 分程度。（延べ参加者数：33 人）

ウ　さんぱくクイズラリー

博物館の展示フロアのチェックポイントをまわり、クイズに挑戦していただき、北アルプスの自然や歴史について、たのしく学んでいただいた。全問正解した方に手作りのオリジナル・カンバッジなどの景品をプレゼントした。（参加者数：約 150 人）

エ　どうぶつスタンプラリー

付属園の飼育動物を観察しながら、園内に設置してある台紙に飼育スタッフ手作りのオリジナルスタンプを押し、たのしんでいただいた。スタンプが全て集まった方には、特典の特大スタンプを押して完成とした。（参加者数：169 人）

e. **所　見**：想定では、当日の入館者を 100～200 人（最大 300 人以内)、クイズラリーとスタンプラリーのイベント参加者を各 100 人以内として、準備を進めた。しかし、当日は想定を上回る入場者と各イベントの参加者があった。今年はじめて開催されたイベントであり、見込み予想を立てるのが難しかったが､結果として大勢の方々に来館いただけた｡当日の無料入館や各種イベントを通じ、普段の来館者層とは異なる幅広い方々にも新たにお出でいただけ、博物館の展示や活動を広く知っていただく良い機会となった。山岳フェスティバルは「信州山の日」制定の趣旨にもとづき行われたもので、観光課の主管ではあるが、山岳博物館の使命にも大きく関わる部分である。このフェスは来年度以降も継続的に開催していく予定とのことなので、同実行委員会や幹事会を通して、今後も協力して事業実施に取り組みたい。なお、当日は友の会ボランティアサークル会員 4 人にクイズラリーとスタンプラリーの受付業務に協力いただいた。

(5) **博物館資料の特別利用**（調整：関悟志）　※山岳図書資料を除く。館外利用（貸出等）のみ

期　間	目　的	利用者	利用資料・点数
4 月 1 日～　※長期貸出	常設展示	京都市動物園	カモシカ骨格標本 2 点
	教育普及	新潟県	ライチョウ剥製 2 点
	常設展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製 1 点
4 月 21 日～	ｳｪﾌﾞｻｲﾄ掲載	針葉樹会（一橋山岳会 OB 会）	小谷部全助使用「山日記」3 冊（翻刻及びコピー複写掲載）
5 月 10 日～	雑誌掲載	㈱山と溪谷社	常設展内観写真データ 1 点
6 月 21 日～平成 27 年 6 月 10 日 ※長期貸出	企画展示	南アルプス市芦安山岳館	カモシカ剥製 1 点、ライチョウ剥製 4 点
7 月 9 日～9 月 30 日	企画展示	長野県立歴史館	大下藤次郎作絵画作品や山岳資料など 7 点
7 月 14 日～	情報誌掲載	㈱エイジャ	外観及び「山の成り立ち」内観写真データ 12 点
7 月末～	情報誌掲載	㈱まちなみカントリープレス	遠山品右衛門など写真データ 14 点
7 月 24 日	図書館ﾚﾌｧﾚﾝｽ対応	法政大学市ヶ谷図書館	『山と博物館』第 6 巻
8 月下旬～	情報誌掲載	㈱ながのアド・ビューロ	外観及び企画展示作品写真データ計 2 点
11 月～	写真集掲載	郷土出版社	アルプスマーモット歓迎式など写真データ 3 点
11 月～	写真集掲載	郷土出版社	2 代目博物館など写真データ 4 点
9 月 19 日	BS 釣りビジョン番組使用	㈱円盤家	遠山品右衛門など写真データ 2 点
10 月 4 日	BS-TBS 番組使用	㈱毎日映画社	雪形写真データ 1 点
9 月	研究論文掲載	東京国立近代美術館	大下藤次郎作絵画作品写真データ 1 点
11 月 5 日～平成 27 年 3 月上旬	情報誌掲載	(有)ボロンテ	百瀬慎太郎関係など写真データ 6 点
12 月 2 日～	研究論文執筆	個人	志村烏嶺肉筆メモノート複写データ 5 点
平成 27 年 4 月～	書籍掲載	個人	付属園カモシカ放飼場写真データ 1 点
平成 27 年 2 月 26 日～5 月 31 日	企画展示	富山市科学博物館	ライチョウ剥製など 7 点
平成 27 年 4 月～	情報誌掲載	(有)トゥインクル	外観及び常設展示風景写真データ 2 点
平成 27 年 2 月～	長野駅内 MIDORI 長野壁面デザイン使用	㈱ながのアド・ビューロ	北アルプスパノラマ写真データ 1 点
平成 27 年 3 月 15 日～	パネル展示	(公財)富山市ファミリーパーク公社	カモシカの毛皮製品など写真データ 4 点

このほかにも社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。

(6) **山岳図書資料館の利用**（調整：西田均・清水隆寿・関悟志）

開館日数	利用者数			資料閲覧	資料貸出	
	市内	県内	県外	件数	件数	点数
315 日	6 人	33 人	71 人	92 件	18 件	60 点
	計 110 人					

3　執筆・出版

(1) 出版

①新規出版物

a.『山と博物館』（担当：千葉悟志）

これまでの読み物的な体裁・扱う内容などを再考し、第 59 巻 第 3 号（4 月号）より内容を博物館の活動などを広報する媒体と位置付け、発行した。また、有料（1 部 100 円）だったものを無料とした。4 月号は、全カラーで、広報おおまちとともに市内各戸に配布、それ以外の号は白黒で大町市役所をはじめ、社会教育施設に毎月新号を設置した。毎月 25 日発行、発行部数 1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁）。

本年度中に発行した『山と博物館』の各号は以下の通り。

巻号	月	内　　容
593	4月	・全館をリニューアルいたしました（1ページ）　・日本のライチョウは生き残れるか？ － 地球温暖化による危機－（2ページ）　・さんぱく座談会、山と博物館、ライチョウ域外保全会議、インターンシップの受け入れ、ライチョウ観察ツアー、展示スポット解説、付属園まつり、サクラソウ栽培展示の報告（3・4ページ）
594	5月	・長野県環境保全研究所と連携・協力に関する協定を結びました（1 ページ）　・雪国に春の到来を告げる雪の芸術「雪形」（2・3ページ）　・ミュージアムカフェ・ショップ“もるげんろーと”がオープンしました、観光ボランティア研修会を開催、友の会展示解説ボランティア研修会を開催の報告（4ページ）
595	6月	・付属園まつりを開催いたしました（1ページ）　・針ノ木岳慎太郎祭、大峰山地の自然なぞ解きトレッキングツアーの開催のお知らせ（2・3ページ）　・茶臼山動物園でライチョウを観察してみよう！、身近なしぜんのかんさつ会、居谷里湿原自然観察会、第3回フラム塾- 信濃大町食とアートの廻廊-の報告（4ページ）
596	7月	・日本山岳会から新たな資料の寄託を受けました（1 ページ）　・針ノ木峠の歴史から北アルプスと人とのかかわりを探る（2 ページ）　・「日本山岳画協会　大町展」、さんぱくこども夏期だいがく、常設展スポットガイド開催のお知らせ　・どうぶつ写生画審査会、市内の幼稚園・保育園が遠足で館内展示や付属園を見学！、TCA 専門学校の見学学習、・第一中学校の職業体験学習の報告
597	8月	・ライチョウ生息状況調査講習会（1 ページ）　・日本山岳画協会大町展開催のお知らせ　・新たなキャンププログラムを提供、八坂中学校の職業体験学習、どうぶつ写生大会　表彰式、大町南小学校3年生　社会科見学の報告
598	9月	・信州山の日「大峰山地の自然なぞ解きツアー」（1ページ）　・企画展「日本山岳画協会大町展」のみどころ（2）　・日本山岳画協会大町展ギャラリートーク、古道　塩の道を歩く　－大町宿－、信濃大町山岳フェスティバル開催のお知らせ（3ページ）　・博物館実習、大町東小学校の教員研修、大町高校野外実習、白馬中学校職業体験学習、TCA インターンシップの受け入れ、大町東小学校理科　ートンボの観察会ーの報告（4ページ）
599	10月	・画家の先生といっしょに北アルプスを描こう！（1 ページ）　・企画展「日本山岳画協会大町展」のみどころ（3）（2ページ）　・板橋区立エコポリスセンターでの活動、みんなで温暖化ウオツチ　セミのぬけがらを探せ！、八坂小学校児童クラブ出張講座、大町北小学校の職員研修、仁科台中学校の職業体験学習、美麻小中学校4学年の理科連携授業、公民館講座の親子教室のみなさんが見学、信州環境フェア、美麻公民館高齢者学級、大人の遠足　信濃大町でバスツアーの報告（3・4ページ）
5910	11月	・「信濃大町山岳フェスティバル 2104」が開催されました（1 ページ）　・生業神・北安曇地方の「山の神」信仰（2ページ）　・企画展「日本山岳画協会大町展」のみどころ（4）、常設展スポットガイドのお知らせ（3ページ）　・美麻小学校 4 学年総合的な学習の時間、須坂市立仁礼小学校 4 学年社会科見学、山岳風景画に関する現地調査、大町西小学校 4 年 2 組親子レクリエーションの報告（4ページ）
5911	12月	・チョウやトンボの標本の寄贈を受けました（1 ページ）　・高山植物シナノナデシコの花は花色変化するのか？（2ページ）　・古道塩の道を歩く、「ボランティアの会」研修会、「岳問のすすめ」、大町東小「出張講座」、保育園児が博物館を見学、大町北小・南小・東小「連携授業」、インターンシップの受け入れ、美麻小中学校「職業体験学習」の報告（3・4ページ）
5912	1月	・神城断層が動いた!（1ページ）　・大町市内の山城（2・3ページ）　・平地区子ども育成協議会が見学　、山岳博物館協議会を開催、第10回安曇野アートライン展の報告、・安曇野アートラインシンポジウム　・ライチョウ講演会、大人のための観察会－冬のライチョウを見に行こう！－開催のお知らせ（3・4ページ）
601	2月	・今年度「常設展スポットガイド」を実施しました（1 ページ）　・大地震を糧に「地震に備える」【前編】、博物館実習の受け入れについてのお知らせ（2・3ページ）　・八坂小学校 6 学年理科授業（地質）、大町西小学校 4 学年の理科連携授業、大町北小学校 6 学年による立川市への紹介映像取材、大町北高等学校の職業体験学習、銀座 NAGANO アートライン展に出品の報告（4ページ）
602	3月	・カクネ里に氷河は見つかるか!?（1ページ）　・大地震を糧に「地震に備える」【後編】（2・3ページ）　・サザエさんに山博が登場！、有線放送・ラジオ放送に出演！、アートラインシンポジウムを開催！、山博・センター合同「救命救急講習会」、研修会への講師派遣、Wi―Fi環境を整備のお知らせ

ｂ．**年報**（担当：鳥羽章人→清水隆寿）

『平成25年度年報』（発行日：平成25年8月31日、発行部数：200部、体裁：A4判、47頁、単色刷り）を編集・発行した。

ｃ．**合本の作成**（担当：清水隆寿）

『山と博物館』第50巻第1号から第59巻第2号までの合本を30冊作成。市内小中高などへ配布。

②販売中の出版物

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り。（平成26年3月31日現在）

書　　名	発行先	発行年	備　考
山と博物館	市立大町山岳博物館	毎月25日	年間購読、館内販売 ※H26.3発行の4月号から無料配布
常設展　山と人 北アルプスと人とのかかわり	〃	平成25年	館内にて販売中
H24 企画展　大地はなぞだらけ	〃	平成24年	〃
H24 企画展　スイス山岳観光の黄金期と日本人	〃	〃	〃
北アルプス登山史資料2 ―白馬岳周辺登山史―	〃	〃	〃
H23企画展　山岳を科学する2011	〃	〃	〃
H21企画展 高山の自然は今…	〃	平成21年	〃
展示案内　北アルプスの自然と人	〃	平成17年	〃
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	平成14年	書店にて販売中
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	平成13年	〃
ライチョウ 生活と飼育への挑戦	〃	平成4年	〃
カモシカ 氷河期を生きた動物	〃	平成3年	〃

4　インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉悟志）

博物館リニューアルオープンにあわせ、平成26年3月29日に公式Webサイトについても全面改定を行い、ブログや北アルプスの四季（2014）、山と博物館（PDF）などの更新、特別展ページの新設を行った。なお、Webサイトの運用には、引き続き大町山岳博物館友の会の支援により実施した。

URL：http://www.omachi-sanpaku.com

(2) 外部ウェブサイト（担当：関悟志）

平成26年3月の公式ウェブサイト・リニューアルに伴い、インターネット上の情報発信を、公式ウェブサイトに一元化し、市・安曇野アートラインの各ウェブサイトにおいては、必要に応じて情報を掲載していく。

①市ウェブサイト

URL：http://www.city.omachi.nagano.jp/00027000/00027010.html

②安曇野アートラインウェブサイト

URL：http://www.azumino-artline.net/oomachi/

5　大町博物館連絡会（担当：西田均）

大町博物館連絡会は市内10館により構成されている。平成26年度より会長職が当館館長からエネルギー博物館館長へと交代がなされた。なお、事務局は引き続き当館が担うこととなった。

主な事業は未加盟の2館からも負担金を徴収し「おおまち博物館めぐり案内図」5万部を作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所などに配布したほか、観光協会を通じて県外エージェント、商談会などに提供し誘客を図った。

6　安曇野アートライン推進協議会・博物館美術館部会（担当：宮野典夫 西田均）

持ち回りとなっている安曇野アートライン推進協議会事務局が大町市教育委員会から安曇野市商

工観光部に交代した。

また、実働を担う博物館美術館部会の代表館は当館が務めることとなり、部会会議（年間6回開催）のほか、アートラインマップ、サマースクールチラシ発行に係わる事務作業、1月10日サンアルプス大町で開催された第12回アートラインシンポジウムに関わる準備、運営等々の業務にあたった。

7　友の会（担当：千葉悟志）

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかると共に、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

(1) 組織

①役員

a. **会　長**　宮澤洋介

b. **副会長**　有川美保子、西沢泰夫

c. **運営部**　部長：川崎晃　副部長：宮田京子
部員：塩瀬淳也、丸山優子、栗林稔、中畑清貴、朝重孝治、
高野淳子、横沢裕美、仙波美代子

d. **編集部**　部長：丸山卓哉　部員：宮澤洋介、岑村隆、五十川渡

e. **事務局**　千葉悟志、宮野典夫、清水博文、清水隆寿、関悟志　小坂共栄

f. **監　査**　越山頼子、瀬戸口三栄子

g. **顧問**　千葉彬司、長沢正彦

②構成（平成27年3月31日現在）

会員種別	会員数	会員種別	員数	会員種別	員数
ファミリー会員	58(221人)	個人会員	67人	学生会員	0人
賛助会員	1団体･1人	終身会員	2人	名誉会員	3人
合　計	295人				

(2) 運営部

①行事

活動日	参加	主な内容
5月11日（日）	募集人員40人 参加者数21人 参加率52.5%	大町市制施行60周年・合併10年記念・長野県環境保全研究所・市立大町山岳博物館連携・協力協定締結記念 茶臼山動物園でライチョウを観察してみよう！（於：長野市茶臼山動物園）
7月21日 （月・祝）	募集人員25人 参加者数23人 参加率92.0%	大町市制施行60周年･合併10年記念「信州山の日」制定記念　大峰山地の自然なぞ解きトレッキングツアー（於：鷹狩山）
10月13日 （月・祝）	募集人員20人 参加者数12人 参加率60.0%	大町市制施行60周年・合併10年記念 古道　塩の道　－ 大町宿 －
2月22日(日)	募集人員20人 参加者数25人 参加率125%	事前学習会「冬のライチョウはどんな生活をしているの？」 (於:山岳博物館　講堂)
3月8日（日）	22人	大町市制施行60周年･合併10年記念 大人のための観察会－ 冬のライチョウを見に行こう！－(於:栂池高原)

(3) 編集部

①「ゆきつばき通信」の発行

号数	発行日	主な内容
159 号	平成 26 年 2 月 6 日（木）	行事案内（座談会・総会） 報告（糸魚川世界ｼﾞｵﾊﾟｰｸ）（ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）（喫茶売店こまくさの閉店）
160 号	平成 26 年 3 月 29 日（土）	行事案内（茶臼山ﾗｲﾁｮｳ観察会） 報告（座談会・総会）（ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）
161 号	平成 26 年 6 月 7 日（土）	行事案内（大峰山地の自然なぞ解き） 博物館案内（特別展「日本山岳画協会大町展」） 報告（茶臼山ﾗｲﾁｮｳ観察会） （ｻｰｸﾙ烏帽子の会・花めぐり・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）
162 号	平成 26 年 8 月 31 日（日）	事案内（古道「塩の道」） 博物館案内（特別展「日本山岳画協会大町展」、展示スポット解説）山岳関連イベント案内（信濃大町山岳ﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ 2014） 報告（大峰山地の自然なぞ解き） （ｻｰｸﾙ烏帽子の会・花めぐり・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）
163 号	平成 26 年 12 月 22 日（月）	事案内（事前学習会・大人のための観察会） 博物館案内（人事異動） 報告（古道「塩の道」） （ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）
164 号	平成 27 年 3 月 29 日（日）	事案内（総会） 博物館案内（人事異動） 報告（ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会）

(4) サークル活動

① 烏帽子の会： 23 人（平成 27 年 3 月 31 日 現在）

活動日	内容	参加者
平成 26 年 2 月 1 日（土）	鷹狩山（大町市）	12 人
平成 26 年 3 月 15 日（土）	白馬みねかた（白馬村）	13 人
平成 26 年 5 月 24 日（土）	鍬ノ峰（大町市）－総会－	9＋5 人
平成 26 年 7 月 6 日（土）	虚空蔵山（上田市）	12 人
平成 26 年 9 月 15 日（土）	牛伏川源流（松本市）	13 人
平成 26 年 11 月 24 日（月・祝）	四阿屋山（筑北村）	9 人
平成 27 年 2 月 7 日（土）	落倉高原（白馬村）	12 人
平成 27 年 3 月 22 日（日）	縞枯山（茅野市）	10 人

② ボランティアの会：29 人（平成 27 年 3 月 31 日 現在）

実施日	主な活動内容	参加者
平成 26 年 3 月 22 日（日）	サクラソウポットと施設周辺の除草	12 人
平成 26 年 3 月 29 日（日）	山と博物館封入作業	8 人
平成 26 年 4 月 20 日（日）	サクラソウポットの除草	8 人
平成 26 年 4 月 26 日（土）～ 5 月 6 日（火）	スタンプラリー受付、館内展示解説	15 人
平成 26 年 4 月 27 日（日）	サクラソウポット内の除草	10 人
平成 26 年 4 月 29 日（火・祝）	サクラソウ移動栽培展示にかかる作業	12 人
平成 26 年 4 月 30 日（水）～ 5 月 24 日（土）	サクラソウ灌水	延べ 23 人
平成 26 年 5 月 25 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	12 人

平成 26 年 6 月 1 日（日）	針ノ木慎太郎祭自然観察班協力	5 人
平成 26 年 6 月 22 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	10 人
平成 26 年 7 月 27 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	7 人
平成 26 年 8 月 24 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	8 人
平成 26 年 9 月 6 日（土）	FM 長野リスナー館内案内	2 人
平成 26 年 9 月 13 日（日）	施設周辺の除草	7 人
平成 26 年 9 月 28 日（日）	山と博物館封入作業	9 人
平成 26 年 10 月 25 日（土）	研修（富山市）	17 人
平成 26 年 10 月 26 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	6 人
平成 26 年 11 月 3 日（月,祝）		3 人
平成 26 年 11 月 23 日（日）	山と博物館封入作業	3 人
平成 26 年 12 月 22 日（日）	山と博物館封入作業	3 人
平成 27 年 1 月 25 日（日）	山と博物館封入作業	11 人
平成 27 年 2 月 22 日（日）	山と博物館封入作業	12 人
平成 27 年 3 月 29 日（日）	山と博物館封入作業	9 人
	延べ参加者数	212 人

③　花めぐり紀行　：13 人（平成 27 年 3 月 31 日　現在）

活動日	内容	参加者
平成 26 年 5 月 18 日（日）	斑尾高原原生花園と大谷地をめぐる	5 人
平成 26 年 6 月 28 日（土）	ｻｻﾕﾘ群生地をめぐる（岐阜県荘川町）	7 人
平成 26 年 8 月 3 日（土）	北ドブ・南ドブ湿原をめぐる	7 人
平成 27 年 4 月 12 日（日）	27 年度総会と観察会	5 人

④　山岳文化研究会　：12 人（友の会 11 人、一般：1 人）（平成 27 年 3 月 31 日　現在）

活動日	内容	参加者
平成 27 年 3 月 25 日（金）	平成 27 年度総会	4 人

8　ライチョウ会議（担当：清水博文・鳥羽章人）

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学教育学部　中村浩志教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。また、館長が構成員となっている。構成員の運営によって年 1～2 回程度会議を開催（構成員として館長出席）し、事務局として当館では、会議開催の調整・通知、会議資料作成などの事務を行っている。

(2) 第 15 回ライチョウ会議東京大会

ライチョウ会議大会は､大会開催地の関係者を中心に実行委員会を組織して年１回開催している。事務局として当館では、大会実行委員長ならび実行委員会事務局と連携して、名義後援依頼や報告書作成などの事務を行っている。この大会では、各分野の研究者・行政等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と、現状を把握し具体的な保護活動に結びつけるための意見交換などを行い、連携を強めるとともに、ライチョウについての知識の普及・啓発を行っている。そして、ライチョウをはじめとした野生動植物の生息環境を含めた保護と、人との共存の道を探ることにつなげるために毎年開催されている。

第 15 回ライチョウ会議東京大会は「ライチョウのために動物園ができること」をテーマとして、平成 26 年 11 月 1 日～2 日に開催された。

11 月 1 日は専門家会議として上野動物園管理事務所を会場に、下記について現状報告、調査・研

究発表や意見交換がなされ、約 80 人が参加した。
第 1 部　生息域内保全に向けた取り組みについて
第 2 部　生息域外保全に向けた取り組みについて
第 3 部　総合討論
11 月 2 日は公開シンポジウムとして東京国立博物館平成館大講堂を会場に、下記について基調講演、パネルディスカッションを行い、約 200 人が参加した。
基調講演は「ライチョウとはどんな鳥なのか？－現状と課題－」と「飼って増やす動物園での取り組み」の 2 題で、パネルディスカッションは「明日のライチョウのために、いま、都会でできること」をテーマに行われた。

9　ボランティア活動（担当：清水博文）

博物館友の会にボランティアサークルが組織されたので、友の会関係は除く。

月　日	内　容	個人･団体名	参加者
4 月 29 日(火)	博物館周辺清掃活動	天理教	約 70 人

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1　動物飼育繁殖（担当：清水博文・宮野典夫・戸谷諭美・尾関美穂・木戸きらら・遠藤モナミ）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもらうという考え方を大切にし、以下の基本方針を定めている（平成24年度策定）。

○生体展示…生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
○教育普及への活用…飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
○傷病鳥獣の救護…傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
○希少種の保護…希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
○施設整備の充実…付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業にかかわり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではカモシカを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

今後の課題として、前記の3つの事業を柱とする動物飼育繁殖事業について、今後将来へ向けた事業全体と各事業の中長期及び単年度ごとの実施計画を検討・作成して事業実施に取り組む。さらに、それらの各事業計画にしたがって、必要課題と要求課題を整理し、現代の社会情勢と市民ニーズに対応した新しい付属園のあり方を明確にした上で、動物飼育舎やカモシカ園フェンス、倉庫などのバックヤード、標示看板や園内路等を含めた施設修繕・改修等の付属園整備計画を作成し、中長期の計画的な付属園整備を実施する。

飼育動物（平成27年3月31日現在）　　（単位：個体）

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	2(1)	5(1)		7(2)	トビ			8(8)	8(8)
ホンドタヌキ	1(1)			1(1)	フクロウ			1(1)	1(1)
ホンドギツネ	1(1)			1(1)	チョウゲンボウ	1(1)	1(1)		2(2)
ハクビシン	2(2)	1(1)		3(3)	キジバト			2(2)	2(2)
					キジ	2(1)	1(1)		3(2)
					カルガモ			1(1)	1(1)
					マガモ	1(1)			1(1)
計	6(5)	6(2)		12(7)	計	4(3)	2(2)	12(12)	18(17)

・哺乳類　4（4）種・12（7）個体
・鳥類　　7（7）種・18（17）個体　　合計　11（11）種・30（24）個体
※（N）の数は救護動物の種数・個体数

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。現在、ニホンカモシカの飼育は行っているが、繁殖は行っていない。また、ライチョウ、イヌワシの飼育は行っていない。

①ニホンカモシカ

a. 出生・導入個体

なし。

b. 死亡個体

なし。

c. 転出個体

現在、ブリーディングローンとして付属園内で繁殖したニホンカモシカを富山市ファミリーパーク（メス・愛称さくら、平成 15 年～）と、埼玉県こども動物自然公園（オス・愛称クロベ、平成 21 年～）に各 1 個体貸出し中。

d. 今後の計画

新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として繁殖を行いたいが付属園の設備が整うまで計画を保留にする。また、国内動物園間でブリーディングローン等も今後行う。

②ライチョウ

a. 方針

国の「ライチョウ保護増殖計画」の具体的な取り組みとして平成 26 年 11 月に環境省から「ライチョウ生息域外保全実施計画」が示され、ニホンライチョウの近縁種であるスバールバルライチョウの飼育・繁殖を進めてきた日本動物園水族館協会に加盟している園館（恩賜上野動物園、富山市ファミリーパーク、いしかわ動物園、長野市茶臼山動物園、多摩動物公園、横浜繁殖センター）での成果が評価され、平成 27 年度からニホンライチョウの域外保全が上野と富山で実施されることとなった。山岳博物館としてはニホンライチョウに焦点をあてた飼育舎を建設し、スバールバルライチョウの導入をして試験飼育をすることとなった。

b. 施設整備

ライチョウ飼育用として 3 棟の施設を荒山設計に設計委託し、株式会社傳刀組に工事請負発注をした。施設の内容として東棟（42.0 ㎡）に孵卵器、育雛器、ケージ 6 個を置き、平飼い飼育用として 1 ツガイとした。中央棟（33.0 ㎡）は平飼い飼育用として 2 ツガイ、西棟（19.03 ㎡）は平飼い飼育用として 1 ツガイを収容できるようにした。

(2) 傷病鳥獣救護

長野県から平成 26 年度野生傷病鳥獣救護事業委託を受け、付属園では大北地域における野生傷病鳥獣救護施設として、ケガや病気の野生動物を収容している。なお、県からの同事業委託は平成 9 年度より毎年受託している。

①収容個体

	種　名	数	状況	保護日(収容日)	形態	処置日
鳥類	アマツバメ	1	巣からの落下	5 月 8 日	死亡	5 月 25 日
	モズ	1	衰弱	5 月 8 日	放鳥	5 月 23 日
	イワツバメ	1	飛翔不可（クモの巣の絡まり）	7 月 9 日	放鳥	7 月 9 日
	コサメビタキ	1	衰弱	7 月 12 日	死亡	7 月 13 日
	イワツバメ	1	衰弱	7 月 20 日	死亡	8 月 26 日
	ツバメ	1	巣からの落下	8 月 20 日	放鳥	8 月 20 日

②所見

衰弱が深刻なものを除き、飼育員の手厚い処置により放鳥または延命できた個体が約半数を占めたことは評価できる。また、半年以上収容した個体は疾病が完治しても餌付いてしまうことが多く、人工哺育した個体と同様、野外に復帰させることが困難となり、長期救護収容個体となる傾向がみられる。

(3) アルプス動物園交換動物

友好提携を結んでいるオーストリア・インスブルック市のアルプス動物園から交換動物として贈られたヨーロッパ・チロル地方の野生動物（アルプスマーモット、ヨーロッパオオライチョウ、シベリアオオヤマネコ、シャモア）を昭和 60 年（1985）から平成 22 年（2011）まで飼育していたが、現在は飼育個体がいない。

2　植物栽培繁殖（担当：千葉悟志）

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

高山植物の生活史研究に伴う増加。減なし。

②栽培植物

コマクサ、フクジュソウ、サクラソウ、ササユリ、ビッチュウフウロ、アズミノヘラオモダカ、イヤリトリカブト、コオニユリ、カキツバタ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、トキソウ・ミズバショウ、リュウキンカ、サワオグルマ、サワギキョウ、シナノナデシコ、ハクサンフウロ、ミヤマキンポウゲ、ハクサンコザクラ、イワオウギ、タカネマツムシソウ、イワギキョウ、オヤマリンドウ、ミヤマリンドウ、ハクサンボウフウ、ミヤマシシウド、チングルマ、ミヤマクワガタ

③概要

コマクサ園・湿原植物園のほか、付属園内でササユリの栽培展示を行っている。高山植物に関しては、敷地内で植え替えを行いながら栽培を行っている。開花期を中心に解説パネルを準備し、生活史や生物間関係について紹介。

Ⅴ　その他

1　各種委員などの委嘱

北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会・参与（宮野典夫）
高山植物等保護対策協議会中信地区・監査（宮野典夫）
大町市観光協会・理事（宮野典夫）
長野県博物館協議会・監査（宮野典夫）
環境省ライチョウ保護増殖検討委員（宮野典夫）
長野県科学振興会大町支部・理事（千葉悟志）
栂池自然園地域保全委員会委員・委員長（宮野典夫）
大町市防災会議委員（小坂共栄）
大町市文化財保護審議委員（小坂共栄）
大町博物館連絡会（西田均）
長野県市民参加型モニタリング手法検討委員（千葉悟志）
長野県版レッドリスト改定委員会植物専門部会員（千葉悟志）
ライチョウ会議構成員（宮野典夫）
針ノ木慎太郎祭実行委員会・副大会長（宮野典夫）
大町桜まつり実行委員（宮野典夫）
北アルプス雪形まつり実行委員（宮野典夫・清水隆寿）

2　アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）

3　信州大学山岳科学総合研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学総合研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

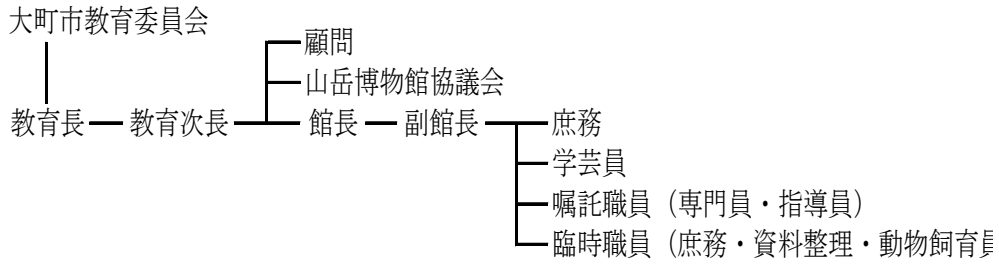
4　長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成 26 年 3 月 25 日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する協定について締結をした。
長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。（同協定書より抜粋）

Ⅵ　運営

1　組織および職員構成

(1) 組織



(2) 顧問

千葉彬司

(3) 協議会委員

学校教育および社会教育の関係者：矢口修、宮澤洋介
家庭教育の向上に資する活動を行う者：今滝一登美、山内香代子
学識経験のある者：岡田忠興、横川仁、鈴木啓助、佐藤悟、宮崎亮、藤沢秀

(4) 職員

①配置

館　長　宮野典夫
副館長　清水博文、鳥羽章人（庶務兼務）
学芸員　清水隆寿、関悟志（人文科学系）　千葉悟志（自然科学系）
専門員　小坂共栄（自然科学系）
指導員　西田均（資料・環境整備）
臨時職員　北村洋子（資料整理、庶務）
　　戸谷諭美、尾関美穂、木戸きらら、遠藤モナミ（動物飼育）

②人事異動

新　規　動物飼育（臨時職員）遠藤モナミ（平成 26 年 4 月 1 日）
転　出　副館長　清水博文（平成 26 年 10 月 1 日）産業観光部農林水産課庶務係へ
転　入　副館長　鳥羽章人（平成 26 年 10 月 1 日）民生部市民課消費生活・交通安全係より

2　協議会

(1) 第 1 回協議会

①日時：平成 26 年 7 月 16 日（水）13：00～14：30
②場所：山岳博物館　講堂
　　出席者：藤沢秀、宮澤洋介、矢口修、今滝一登美、佐藤悟、山内香代子
③内容：・報告
　　平成 25 年度事務事業評価について
　　・協議
　　鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓（氷河）総合学術調査について

(2) 第 2 回協議会

①日時：平成 26 年 11 月 11 日（火）13：30～15：30
②場所：長野県山岳総合センター
　　出席者：宮澤洋介、矢口修、今滝一登美、岡田忠興、佐藤悟、山内香代子
③内容：・報告
　　平成 26 年度事業について
　　・協議

鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓（氷河）総合学術調査について
ライチョウ保護事業について
平成 27 年度事業について

入館者状況

(1) 過去の入館者状況

（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65 歳以上	小中生		
S26	291		100	21		77	489					489
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147					5,147
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092					13,092
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424					11,424
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885					10,885
31	2,148		888	1,036		858	4,930					4,930
32	1,934		658	826		1,880	5,298					5,298
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897					7,897
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113					7,113
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599					8,599
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163					10,163
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243					14,243
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893					15,893
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242					26,242
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560					25,560
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680					26,680
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900					25,900
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538					41,538
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967					32,967
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929					30,929
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326					39,326
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670					40,670
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373					58,373
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254					62,254
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692					67,692
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603					70,603
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700					54,700
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129					64,129
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943					63,943
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038					57,038
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132					65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709	80,744

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校	小中	大人	高校	小中			65歳以上	小中生		
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577	86,477
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413	73,824
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429			1,429	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206	34,618
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655	28,399
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891	28,322
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317	21,551
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599	19,265
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675	23,363
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874	17,572
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325	18,515
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655	17,942
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147
23	12,363	127	855	2,963	328	1,396	18,032	2,032	146	819	2,988	21,020
24	9,818	144	640	2,344	498	587	14,001	1,255	94	783	2,132	16,133
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	970	162	432	1.565	12,237
26	12,249	119	893	3,146	655	370	17,432	2,450	422	615	3,487	20,919
計	1,308,675	19,826	193,794	600,969	85,011	281,794	2,490,068	101,175	2,538	8,223	111,936	2602,004

(2) 平成 26 年度の入館者状況　　（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内			
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳以上	小中生		
4	1,300	2	111	207	92	9	1,721	219	151	113	483	2,204
5	1,738	14	144	198	0	13	2,107	356	69	63	488	2,595
6	877	3	39	247	108	3	1,277	117	10	15	142	1,419
7	1,252	21	59	304	442	123	2,201	275	39	45	359	2,560
8	2,769	57	396	662	10	154	4,048	351	51	85	487	4,535
9	1,244	6	28	288	0	47	1,613	503	38	78	619	2,232
10	1,230	4	26	609	2	13	1,884	342	18	116	476	2,360
11	849	3	24	312	0	3	1,191	111	32	68	211	1,402
12	121	0	7	31	0	1	160	14	1	0	15	175
1	162	0	5	0	0	0	167	85	0	2	87	254
2	190	0	4	177	0	2	373	42	2	14	58	431
3	517	9	49	111	1	2	690	35	11	16	62	752

	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内			
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65歳以上	小中生		
計	12,249	119	893	3,146	655	370	17,432	2,450	422	615	3,487	20,919
前年	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	919	162	409	1,490	12,162
前年度比	162%	124%	171%	157%	461%	105%	163%	267%	261%	150%	234%	172%

(3) 平成26年度の開館日数

317日

6　平成26年度予算・決算

(1) 歳入　（単位：円）

項　目	観覧料	県委託金	雑　入	市債	計
当初予算	5,830,000	200,000	121,000	42,600,000	48,748,000
決算額	6,434,600	246,000	504,028	2,200,000	9,384,628
	604,600	46,000	386,028	△40,400,000	△39,363,372

(2) 歳出　（単位：円）

項目	一般職員人件費	管理運営一般経費	教育普及事業	調査研究事業	資料収集保管事業
当初予算	30,027,000	20,498,000	5,001,000	598,000	4,522,000
決算額	29,627,738	23,999,803	4,273,162	2,335,256	4,231,476
	△399,262	3,501,803	△727,838	1,737,256	△290,524
項目	動植物飼育栽培事業	ライチョウ飼育事業			計
当初予算	9,622,000	49,240,000			119,508,000
決算額	9,828,445	5,323,540			79,619,420
	206,445	△43,916,460			△39,888,580

7　ミュージアムショップ・カフェ

平成6年7月1日より、山博友の会が運営していたミュージアムショップ・カフェ「こまくさ」が平成25年11月4日をもって終了し、新たな経営者を募集して営業にあたった。

(1) 公募

①公募期間　平成26年1月4日～2月19日
②現地説明会　平成26年1月27日
③公募者　山内優、(株)ハーヴェスタ・クリエーションズ、(株)ピュアハウスの3者
④平成26年2月20日一次審査（書類審査）　3者とも合格
⑤平成26年3月3日二次審査（プレゼンテーション）　山内優が合格

(2) 営業

ミュージアムショップ・カフェ「もるげんろーと」として平成26年4月15日～平成26年12月23日まで営業を行った。

Ⅶ　関係条例規則

1　市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（観覧料の減免）

第 6 条　教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 7 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第 8 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 9 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という）は 15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者
(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
(3) 学識経験のある者
(4) 公募による市民等

3　委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 10 条　この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

1　この条例は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）第 5 条の規定により委

員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第 3 項の規定にかかわらず、昭和 58 年 3 月 31 日までとする。

附　則（昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号）

この条例は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成元年 3 月 24 日条例第 7 号）

この条例は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号）

この条例は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号）

この条例は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年 3 月 29 月条例第 13 号）

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号）

この条例は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 17 年 12 月 6 日条例第 30 号）

この条例は、平成 18 年 1 月 1 日から施行する。

附　則（平成 24 年 3 月 26 日条例第 3 号）

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 26 年 3 月 28 日条例第 8 号）

この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 5 条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1 人	400 円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30 人以上の場合をいう）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

2　市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

（趣旨）

第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（職務）

第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。

2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。

3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。

4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。

5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。

（休館日）

第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。

(1)　毎週月曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）

(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）

（開館時間）

第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。

（観覧券の交付）

第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。

（観覧料の減免）

第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

（博物館資料の利用等）

第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。

2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。

（入館制限等）

第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。

(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

(2)　管理上支障があると認められるとき。

(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。

（資料の寄贈及び寄託）

第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。

2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。

3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。

4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。

（資料等の滅失・損傷）

第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

（協議会の組織）

第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。

2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

（協議会の会議）

第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則

1　この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第 9 号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号）は、廃止する。

附　則（平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号）

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号）

この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号）

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

様式（省略）

3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
２　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
２　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
２　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則

この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ　山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

1　市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粋たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

2　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る　きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人とが共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。

②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。

③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。

④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。

⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

①観光客･登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について､関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。

②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。

③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人とが共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3　平成 24 年度からの山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集
調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。
③体制づくり
国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。
(2)資料の収集・整理、保管の推進
北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。
①収集・整理の推進
早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。
②収集の範囲
山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。
③保存・管理の推進
収集された資料は適正に管理された環境おいて保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。
(1)調査研究の成果および収集資料の活用
調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。
①調査・研究の成果活用
調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。
②収集・保管の成果活用
収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。
③保護・保全への貢献
調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。
④体制づくり
山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。
(4)教育普及活動の推進
地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすくて興味が持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。
①生涯教育・社会教育の推進
博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく、生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。
②学社連携・融合の推進
学校と博物館を結んだ事業を積極的におこない、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをする。
③協働の推進
国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。
(5)付属園（動植物園）の充実
付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培･飼育し､生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。
①生体展示
生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

Ⅸ　施設

1　敷地面積

41,575.69 ㎡（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 ㎡、民有地：3,082.54 ㎡

2　本館建物

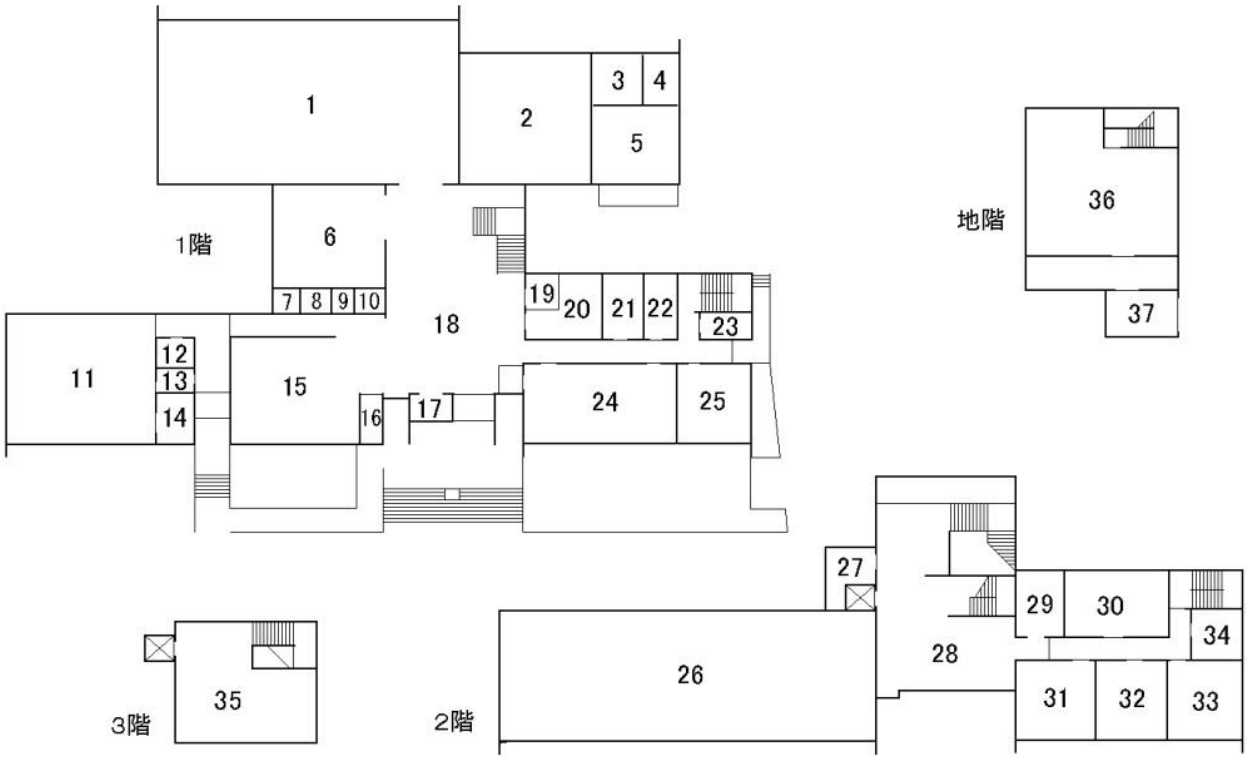
(1) 構造：鉄筋コンクリート造　地上3階 地下1階
(2) 竣工：昭和57年5月31日竣工
(3) 面積：建築面積　　1,280.9 ㎡　　延べ床面積 2,207.0 ㎡
(4) 床面積表　　（単位：㎡）

1階　1244.9					
名　称		面積	名　称		面積
1	展示室	290.0	14	準備室	9.1
2	収蔵庫	104.0	15	ｶﾌｪ･ｼｮｯﾌﾟ	74.2
3	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	16.4	16	授乳室	6.7
4	燻蒸室	12.3	17	荷物置場	14.4
5	荷解作業室	41.3	18	ホール	116.9
6	特別展示室	70.4	19	多目的ﾄｲﾚ	6.5
7	EV機械室	6.0	20	女子ﾄｲﾚ	22.5
8	倉　庫	3.5	21	書　庫	16.7
9	倉　庫	3.0	22	更衣室	14.6
10	E.V	5.1	23	倉　庫	8.8
11	講　堂	110.2	24	事務室	69.6
12	ﾄｲﾚ	8.1	25	休憩室	32.5
13	倉　庫	5.4	廊下、階段等		109.2

2階　686.1					
名　称		面積	名　称		面積
26	展示室	290.0	31	研究室	34.8
27	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	14.9	32	資料庫	34.8
28	展示室	113.6	33	図書室	34.8
29	男子ﾄｲﾚ	18.2	34	資料庫	16.0
30	収蔵庫	42.1	廊下階段等		86.9

3階　116.8				
名　称		面積	名　称	面積
35	展示室	94.6	階段	22.1

地階　159.2				
名　称		面積	名　称	面積
36	機械室	118.8	階段	17.4
37	車　庫	23.0		



3　付属施設

(1) 付属園（本館隣）

①施設の概要　　敷地面積：39,875.92 ㎡

②建物の概要（建設年度順）　※B-5・8・10 については放飼場の面積を除く

施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）		施設名および面積（築年度）	
B-1	25.10（S38→S55 移設）	A-5	33.44（S49）	B-4	37.63（S54,55）	B-9	34.02(H3,4)
B-2	13.78（S38→S55 移設）	A-6	H26 年度解体	A-9	15.70(S57)	B-10	5.20（H3）
A-1	33.48（S42,43）	A-7	H26 年度解体	B-6	18.91(S60,61)	B-11	62.24(H4)
A-3	15.24（S48）	A-8	11.56（S53）	B-7	47.25(S61)	B-12	88.84(H7)
A-4	H26 年度解体	B-3	24.08（S53）	B-8	26.92(H1)	A-10	52.00(H21)

(2) 山岳図書資料館（本館隣）

①施設の概要

・構造・規模：鉄骨造　地上 2 階

・竣工・開館：平成 24 年 3 月 2 日竣工　平成 24 年 4 月 20 日開館

・各　面　積：敷地面積 498.21 ㎡　建築面積 59.96 ㎡

延床面積 117.45 ㎡（1 階 58.725 ㎡、2 階 58.725 ㎡）

・設備・備品：ハンドル式移動書架（各種）20 基　固定式書架（各種）25 基　ほか

Ⅹ　利用案内（平成 27 年 3 月 31 日現在）

1　開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

2　休館日　　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
　　※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休

3　交通　　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシー5 分、徒歩 25 分
　　車　長野自動車道安曇野 IC から 40 分
　　（北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 km）
　　※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）

4　観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5　ユニバーサルデザイン
　　入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能

6　所在地および連絡先
　　〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
　　（標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
　　TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
　　E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
　　URL：http://www.omachi-sanpaku.com

市立大町山岳博物館　平成 26 年度　年報
平成 27 年7月1日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　北辰印刷㈲
〒398-0002 長野県大町市大町桜田町 3,871-1
TEL:0261-22-3030　/　FAX:0261-22-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。